

1. 件名：「浜岡原子力発電所3号機及び4号機の地震等に係る新基準適合性
審査に関する事業者ヒアリング(94)、(127)」

2. 日時：令和2年9月24日（木）10時5分～12時30分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※・・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：内藤安全規制調整官、熊谷管理官補佐、佐口主任安全審査
官、谷主任安全審査官、海田安全審査専門職、磯田係員

中部電力株式会社：原子力本部 原子力土建部 執行役員

中川原子力土建部長 他11名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・ 浜岡原子力発電所 新規制基準適合性審査 指摘事項リスト
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について（コメント回答）
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について（補足説明資料）
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち歴史記録及び津波堆積物に関する調査について（コメント回答）
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち歴史記録及び津波堆積物に関する調査について（補足説明資料）

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	これまで通りちょっと録音をして議事録として上げるという方向とりますので、よろしく申し上げます。
0:00:11	よろしく願いいたします。
0:00:18	よろしいですか。
0:00:20	はい。
0:00:22	そうでしたら、
0:00:25	浜岡原子力発電所基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価についてというところに関わるヒアリングを始めさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。
0:00:42	中部電力アマンでございます。よろしく願いいたします。
0:00:45	前回 8 月に実施させていただきましたコメント回答資料について、事実確認いただきまして、一部資料の適正化を図って参りましたので、そのポイントを中心に再度御説明をさせていただきたいと思っております。
0:01:02	御説明時間はおおよそプレート間地震の津波と津波堆積物と合わせて 45 分程度になるかと思っておりますのでよろしく願いいたします。
0:01:18	中部電力の加藤です。
0:01:20	浜岡原子力発電所基準津波策定のうちプレート間地震による津波についてコメント回答資料説明します。
0:01:27	前回の 8 月 19 日のヒアリングを受けまして資料を修正しましたので、変更箇所を中心に全体を再度説明いたします。
0:01:35	まず 2 ページですが、本資料の説明内容を示しております。
0:01:39	前回スガヤさんよりフローの矢印に関する御質問がありましたので、今回一部修正しました。
0:01:45	上のグレーの歴史記録及び津波堆積物に関する調査とその下の黄色の行政機関による津波評価の確認の箱をひとくりにしまして、そこから地震による津波と地震以外の要因による津波に向かって矢印が行くようにするとともに、
0:02:01	歴史記録及び津波堆積物に関する調査から基準津波の策定のところに矢印が向かうようにしました。
0:02:09	次の 3 ページは新規の資料となりますが、プレート間地震の津波評価の全体概要をお示ししています。
0:02:16	前回のヒアリングで当社のモデルは内閣府の最大クラスモデルを出発点としてパラメータを設定したのではないかと御確認がありましたので、
0:02:24	今回、内閣府の最大クラスモデルではなく、当社として遠州灘沿岸域の功績再現モデルを作成し、これをベースとして、国内外の巨大地震津波の発生事

	例を踏まえたパラメータ設定及び滑り域の位置やライズタイム等の波源特性の不確かさのパラメータスタディを実施して、
0:02:42	敷地への影響が大きい津波波源を設定しているという、プレート間地震の津波評価の流れを確認できるようにしました。
0:02:50	上の緑の箱書きが基本的な津波評価の流れになりまして、左から遠州灘沿岸域の功績再現モデルの検討、検討波源モデルの設定。
0:03:01	概略パラメータスタディ、詳細パラメータスタディの順に検討を進めていますが、
0:03:06	今回、先行他社資料とあわせた形でも御確認いただけるように、一番上のグレーの箱書きを追記するとともに、
0:03:13	赤字青字で示す通り、概略パラメータスタディの結果選定した発電所への津波影響が大きい津波波源に基準断層モデル 12 という名称を追記しました。
0:03:26	まず左上の緑の箱書きですが、遠州灘沿岸域の功績再現モデルの検討として、歴史記録及び津波堆積物に基づき、遠州灘沿岸域の功績高を再現するモデルを設定し、遠州灘沿岸域で確認されているすべての津波堆積物を概ね再現していることを確認しました。
0:03:46	なお、左下の注釈の片括弧 1 ですが、
0:03:49	ベースとする再現モデルには内閣府 2012 による約 5kmメッシュの津波断層面と沈み込み速度の調査結果を用いまして、その妥当性を確認しました。
0:04:01	次に検討波源モデルの設定として、遠州灘沿岸域の痕跡再現モデルに対して保守的に国内外の巨大地震津波の発生事例を踏まえてパラメータを設定した波源域の面積、地震規模、浅部の滑り量を
0:04:16	それぞれ痕跡再現モデルの 1.5 倍 4 倍 4 倍としました。
0:04:21	なお、左下の注釈の片括弧 2 ですが、
0:04:25	国内外の巨大地震津波の発生事例の収集においては、内閣府 2012 による調査結果も確認しました。
0:04:32	また(3)ですが、
0:04:34	敷地への影響の観点から駿河湾内に超滑り域、平均滑り量の 4 倍の滑り領域を設定しました。
0:04:43	このように検討した検討波源モデルに対して概略パラメータスタディとして、敷地への影響の観点からオオツ日利益が 1ヶ所の場合と 2ヶ所の場合と異分けて滑り域の位置を東西へ約 10kmずつ移動させて検討し、
0:04:58	赤字で示しております水位上昇側で影響が大きい断層モデルを選定し、基準断層モデル 1、また青字で示しております、水位下降側で影響が大きい断層モデルを選定し、基準断層モデル 2 としました。

0:05:13	一番左の注釈の片括弧 4 ですが、保守的に国内外の地震津波の発生事例を踏まえて、結果的に遠州灘沿岸域の功績再現モデルに対して 4 倍の滑り応答設定した基準断層モデル等は内閣府 2020 及び南海トラフにおける
0:05:31	2020 年時点までの津波堆積物の調査資料の大幅な拡充を踏まえると、十分安全側の設定となっていると考えられます。
0:05:40	最後に一番右ですが、詳細パラメータスタディとして、国内外の巨大地震津波の発生事例を踏まえてライズタイム、破壊伝播速度、破壊開始点の組み合わせといった波源特性の不確かさを網羅的に検討することで、プレート間地震の津波として、
0:05:57	続い上昇側で 20.3m、
0:06:00	水位下降側で水位低下時間 13.2 分と評価しました。
0:06:05	以上のように、当社のモデルは内閣府の最大クラスモデルを出発点としてパラメータを設定したのではなく、当社として合理的な範囲を考慮したパラメータスタディを行い、選定したモデルであることがわかるようにしました。
0:06:18	7 ページをお願いします。
0:06:24	7 ページはコメントの一覧表です。
0:06:26	今回の修正に合わせて、右側のコメントNo.2 の該当箇所のページ番号を適正化しました。
0:06:34	ページ飛びまして 11 ページをお願いします。
0:06:41	11 ページはコメント回答の検討概要です。
0:06:45	検討項目として①から④まであり、これらを踏まえて下の箱書きの結論としています。
0:06:52	以降①から④の検討項目のうち、前回のヒアリング資料から変更した箇所について説明します。
0:06:58	まず①の内閣府南海トラフの巨大地震モデル検討会の検討内容の確認について変更箇所を説明いたします。
0:07:07	14 ページをお願いします。
0:07:12	14 ページは前回から大きな変更ありませんが、ここには内閣府の南海トラフの巨大地震モデル検討会の検討内容の確認結果として、
0:07:21	内閣府の最大クラスモデルの位置付け、
0:07:24	滑り量ライズタイムの設定。
0:07:26	不確かさ考慮の三つの項目について整理しています。
0:07:30	これらの詳細については 15 ページ以降にお示ししています。
0:07:35	15 ページは、内閣府の最大クラスモデルの位置付けに関する確認結果です。
0:07:40	15 ページの議事録等の記載には内閣府の議事録等の抜粋

0:07:45	その下の機械の整理結果にはこれらの整理結果を示しています。
0:07:50	弁閉サグチ頼り議事録の記載と整理結果の紐づけがわかるようにすべきとの確認がありましたので、15 ページから 20 ページにかけて、議事録等の記載に丸数字でナンバリングしまして、下にある機械の整理結果との関係がわかるように再整理しました。
0:08:07	合わせて、右側の当社の説明内容のところに関連するページの番号が崩れておりましたので、正しい記載としました。
0:08:16	議事録等の記載から。
0:08:18	太字の記載の整理結果の通り、
0:08:20	南海トラフの最大クラスモデルは地震津波の件やる有識者から集った上で、当時の科学的知見をもとに、これ以上ないものとして検定検討されたと整理しました。
0:08:32	最初のところの南海トラフの最大クラスモデルは地震津波の経緯ある融資有識者が集った上でのところに関しては、
0:08:40	①。
0:08:42	想定すべき最大クラスの対象地震の設定方針を検討することを目的として、理学工学等の研究者から構成される検討会を設置する。
0:08:52	続いて、
0:08:53	当時の科学的知見をもとに、のところに関しては②③の通りで、
0:08:58	②南海トラフのプレート境界で発生する巨大地震について、防災対策を立案するにあたり想定すべき最大クラスの地震津波とはどのようなものか、最新の科学的な知見をもとにその姿を明らかにしていただきたい。
0:09:12	③。
0:09:14	温水系は東北地方太平洋沖地震発生後 1 年あまりという短い期間の中で昨年平成 23 年 8 月に第 1 回南海トラフ巨大地震モデル検討会を開催して以降、24 回上る検討重ね巨大地震の津波等に関する超詳細な分析と
0:09:32	現時点の最新の科学的知見を広く結集していられた成果である。
0:09:37	次に、
0:09:38	これ以上ないものとして検討されたのところに関しては、④から⑥の通りで、
0:09:43	④。
0:09:45	ここで今示すのは、最大クラスでこれ以上はあり得ないというもの。
0:09:49	⑤。
0:09:50	本報告の津波断層モデルはM9 クラスの巨大地震第 1 の中でも最大級のものであり、これにより推計される津波高浸水域とは最大クラスの津波によるものである。

0:10:03	⑥最大クラスの津波の津波断層モデルについては、巨大地震の中でも最大級のものであることを確認した。
0:10:11	以上から記載の整理結果の通り整理しました。
0:10:15	16 ページは、引き続き内閣府の最大クラスモデルの位置付けについての確認結果です。
0:10:20	議事録等の記載から下の太字の記載の整理結果の通り、
0:10:25	南海トラフの最大クラスモデルは歴史記録、津波堆積物等に基づく洪積高やその再現モデルと比較して検討されており、
0:10:33	自然現象にばらつきがあることを踏まえ、2012 年時点においてない津波堆積物等に関する知見が限られていたことが議論され、
0:10:41	結果、結果として痕跡高を 23 倍程度で包絡する津波が想定されたと整理しました。
0:10:48	まず最初の南海トラフの最大クラスモデルは歴史記録、津波堆積物等に基づく痕跡高やその再現モデルと比較して検討されており、のところに関しては、①から③の通りで、
0:11:01	①。
0:11:02	堆積物そのものは高そうなものを示しているわけではありませんが、そのところがちゃんと浸水するかどうか進出していなければ、きちんと浸水するという形に調整をして、再現モデルを作りたい。
0:11:15	②。
0:11:16	津波については、波形を各地震ごとに分ける明らかにしようとするれば、現時点では、古文書資料において信頼性が確認されているものによらざるを得ないが、
0:11:25	波堆積物調査等を活用することによって、古文書資料から明らかにできない過去の津波についても、そのおおよその大きさを比較することができる。
0:11:35	③。
0:11:36	堆積物のところは標高 2m 足した形で資料を整理していれば、
0:11:40	滑り域或いは超滑り域がない状況、滑り量が約 10m のモデルで計算したものがこれですと、概ね過去の地震のものと同ほ等価の高さになった。
0:11:52	続いて、
0:11:53	自然現象にばらつきがあることも踏まえのところに関しては、④から⑥の通りで、
0:11:59	○よ。

0:12:00	実際に発生する地震には不確定性があり、その設定値を超える場合もある。こういうばらつきを含めてどう見ていくのか、これらも踏まえながら今後の検討を進めたい。
0:12:10	⑤自然というのがなかなかわからない部分もあり、こういう過去の災害は極めて低頻度でデータが少ない。
0:12:18	そういう中からどこまでも正解を求めていこうとしても、それは限界がある。
0:12:22	大体この範囲に入るとかこうだという程度なので、あまり究極の正解を求めていただかなくてもいいのではないかと思っている。
0:12:30	⑥。
0:12:32	不確実性はある程度必要だと思う。例えばショーワだとか安静だとか多少小さいものの中では放映が大きいというわけで、
0:12:40	全部のデータを使えば放映できたものが最大の
0:12:43	例えば 300 から 400 年に 1 回は放映みたいな大きなものが起こるとすると、その大きなもののうちの最大は何かという答えを求めているのかと言う人にも対して最大の中の最大です。
0:12:56	次に、
0:12:57	2012 年時点において津波堆積物等に関する知見が限られていたことが議論されのところに関しては、⑦から⑨の通りで、
0:13:06	⑦。
0:13:07	個人資料について、数千年だったら、やはり最大クラスの地震津波を見ているのではないか。
0:13:13	これは数百年だったらわかる。
0:13:15	言いたいのは、現時点の資料で完璧に
0:13:18	想定再現できるかというところが、まだ課題が残っているということ。
0:13:23	⑧。
0:13:24	地質学的な研究津波堆積物の研究も南海トラフに関しては極めて不十分な状態で、過去の地震の規模を正確に予測するということができなかったということを改めて痛感しました。
0:13:36	ですからこのモデルをつくって出ていくわけですがけれども、やはりそういう調査というのは今後も続けていって、過去にどのぐらいのものがどのぐらいの頻度で起こっていたかというかこの情報をもっと精度を上げて調べていくということ。
0:13:49	そして信頼できるものが出てきた場合には、そういうものを反映して今回作られるものを修正していくとか、改めてちゃんと国としてメッセージを出すということも、その先の話になりますけれども考えていただきたい。

0:14:02	⑨。
0:14:03	今回の検討はあくまでも現時点の学的付けに基づいたものであり、今後の科学的知見の蓄積を踏まえて検証し、
0:14:12	必要に応じて修正していくべきものである。
0:14:14	このため、現時点では過去地震の月も限られることから、古文書調査津波堆積物調査等の一層の促進を図る必要がある。
0:14:25	次に、
0:14:26	結果として痕跡高を 23 倍程度で包絡する津波が想定されたのところに 関しては、⑩から⑬の通りで、
0:14:34	⑩。
0:14:35	従来 2003 年のときと今回の最大のものを比較した津波高の数があるが、これを ずらずらっと見てみると、
0:14:42	今回が大体 3 倍ぐらい大きくなっている。
0:14:45	⑪。
0:14:46	オオツに行きますと、場所によっては 3 倍ぐらいの高さになっているところがある。
0:14:51	紀伊半島に向けても、同じく従来の二倍或いは 3 倍ぐらいの高さになっている。
0:14:57	⑫。
0:14:58	考えている事象そのものは 1000 年 9 だったとしても、住民が見ている津波の高さとか、 深度というのは数字で表せないタイプのものを出した。
0:15:07	⑬少なくとも歴史記録とか、津波堆積物を見ても、今回出しているモデルのクラスの 地震津波が起こったという証拠はないと思う。
0:15:17	以上から、記載の整理結果の通り整理しました。
0:15:21	17 ページは滑り量ライズタイムの設定に関する確認結果です。
0:15:26	議事録等の記載から下の太字の記載の整理結果の通り、
0:15:31	滑り量について、
0:15:33	当初は日本海溝と南海トラフとの構造的な違いを踏まえると、東北沖と同等の滑り量 まで考慮しなくてもよいとの議論もあったか。
0:15:41	波だけの想定が大きくなるように、結果として、南海トラフの再現モデルの滑り量約 10mを大きく上回る滑り量約 40mが設定されたと整理しました。
0:15:53	まず最初の、日本海溝と南海トラフとの構造的な違いを踏まえると、工期と同等の滑り量 まで考慮しなくてもよいとの議論もあったのところに 関しては、①から④の通りで、

0:16:06	①南海トラフ沿いを考えるときに、やはり日本海溝と構造的に少し違うところがある。
0:16:13	南海トラフ沿いで津波地震を考慮し、する必要はどこから出てくるのか。
0:16:18	○に日本海溝と明らかに違いプレートの沈み込み角度も違うし、こちらは付加体が発達しているし、日本海溝は侵食で削り取って中に巻き込んでいくという明らかな違いがあるので、この日本海溝と同じことをここで当てはめられるかどうか重要だと思う。
0:16:35	このプレート境界の幅も違うし、浅い部分がかなり広くある日本海溝とあまり幅がない慶長の所無理やり考えても20kmぐらいしか幅が取れないため、それは慎重に考えないといけない。
0:16:48	③。
0:16:49	プレートの沈み込み量と滑り量との関係について、概ね400年という形で見ると、回そうと思えば、あと開口が20mの滑り量で動かすと、大体総代時である。
0:17:01	これを選任すると全然違う量になると、その考え方で滑り量を入れると、明らかに4倍の40mの滑り量にすると、その二倍以上になるので、そこまでなくてもいいのではないかと思う。
0:17:15	○よ。
0:17:15	東北地方太平洋沖地震はこうだったけれども、南海トラフについては、本当にトラフ軸付近がすべらない。
0:17:23	続いて津波高の想定が大きくなるように、のところにに関して、
0:17:28	⑤。
0:17:29	トラフ側をプレート境界弁上で動かすとすると20mの滑り量に対して、さらに二倍ぐらいの滑り量にしないと全体が大きくなる。
0:17:39	ミニ、
0:17:40	結果として、南海トラフの再現モデルの滑り量約10mのところに関して、
0:17:45	⑥。
0:17:47	滑り域或いは超滑り域がない状況。
0:17:50	滑り量が約10mのモデルで計算したものがこれですと、
0:17:54	概ね過去の地震のものとほぼ等価な高さになっている。
0:17:58	次に、滑り量約40mが設定されたのところにに関して、⑦、⑧の通りで、
0:18:06	⑦、巨大地震の津波断層モデルとしては、滑り域とそのトラフ沿い側に超滑り域があるケースを検討することとした。
0:18:15	⑧。

0:18:16	津波断層モデルは、検討ケースにより多少残っているが、津波地震として設定したトラフ沿いの津波断層モデルも含めると、
0:18:24	Mw9.1、平均滑り量約 10mを滑り域及び超滑り域の滑り量は、それぞれ約 420m、約 40mである。
0:18:35	以上から、記載の整理結果の通り整理しました。
0:18:39	次に 18 ページは、引き続き滑り量ライズタイムの設定に関する確認結果です。
0:18:45	議事録等の記載から下の二つ、太字の記載の整理結果の通り、
0:18:49	ライズタイムについて不備量とライズタイムとはトレードオフの関係にあるとの議論もあったが、東北沖地震のライズタイムがそういうふうな程度にあるのに対して、それより短い 60 秒に設定されたと整理しました。
0:19:03	まず最初の滑り量とライズタイムとはトレードオフの関係にあるとの議論もあったのところに、 ① と ② の通りで、
0:19:12	① 断層滑りの速度に関しては非常にゆっくりだという仮定でやると非常に長く滑り量を大きくしなければいけないので、その辺のトレードオフがある。
0:19:22	② 。
0:19:23	例えば狭い範囲が 120 秒かけて持ち上がった場合と、300 秒 600 秒かけてかけてノズル誤記時間と津波の沿岸での津波波源を比較しているが、割と短い二分程度で改訂がモリ上がれば大きな津波になるが、これが五分とか 10 分ぐらいかけてゆっくりと変動した場合には、津波の高さは高くない。
0:19:43	続いて、
0:19:44	投光器地震のライズタイムが数分程度であるのに対してのところに、 ③ と ④ の通りで、
0:19:51	③ 。
0:19:53	後期地震津波の再現モデルについて断面には、破壊開始から大体 210 秒ぐらいで最新の動きになった。
0:20:00	④ 内閣府による投光器地震津波の再現モデルのライズタイムは 300 秒とされていて、
0:20:08	次に、
0:20:09	それより短い 60 秒に設定されたとのところに、 ⑤ と ⑥ の通りで、
0:20:15	⑥ ⑤ 全体が 1 分でずると動いた、或いは 3 分動いた、十分に動いたというものを示した。
0:20:22	⑥ 、赤いそのものは 2.5km毎秒でライズタイム 1 分としている。
0:20:28	以上より、記載の整理結果の通り整理しました。
0:20:32	いや 19 ページは、不確かさ考慮についての確認結果です。

0:20:37	議事録等の記載から下の太字の記載の整理結果の通り、
0:20:41	南海トラフの津波評価において、滑り量の影響が大きいことが確認された。
0:20:47	一方、破壊開始点の影響についても技術議論評価がなされ、南海トラフの津波評価に与える影響は小さいとされた。
0:20:55	また、海底地すべりによる津波との組み合わせが検討項目として明示されていないことについて、
0:21:01	東北には発達しているものが見えているのに対し、
0:21:04	南海トラフでは、大規模な地すべりが見られないことが議論されたと整理しました。
0:21:10	まず最初の南海トラフの津波評価において、滑り量の影響が大きいことが確認されたのとは、①と②の通りで、
0:21:19	①。
0:21:20	堆積物のところは標高 2m 足した形で資料を整理しているが、滑り域或いは超滑り域がない状況に量が約 10m のモデルで計算したものがこれですと、概ね過去の地震のものとはほぼ等価な高さになっている。
0:21:35	②。
0:21:36	従来 2003 年のときと今回の最大のものを比較した津波高の数があるが、これをずらずらと見てみると、今回が大体 3 倍ぐらい大きくなっている。
0:21:47	続いて、
0:21:48	破壊開始点の影響についても議論評価がなされ、のとは、③と④の通りで、
0:21:54	③。
0:21:55	断層面が一度に破壊して初期水位を作ってから後からた波形と伝播していく形で計算しているわけ。
0:22:02	実際には、徐々に断層が伝播していくので、それによって、津波の高さがどれぐらい違うのかということを確認する意味で計算を行った。
0:22:10	④。
0:22:12	波断層の破壊の仕方については、第一次報告のような津波断層が同時に破壊するモデルではなく、
0:22:18	破壊開始点から準じやっぱりしていく効果が反映されるモデルとし、
0:22:22	それぞれのケースについて津波高浸水域等を推計し取りまとめた。
0:22:28	次に、南海トラフの津波評価に与える影響は小さいとされたのとは、
0:22:34	⑤。

0:22:35	破壊開始について真ん中から割れていったもの、東から割れていったものに叱られていったものをそれぞれ差がどのぐらいあるのかということを検討した結果、
0:22:45	波高さの大きいところはほとんど同じである。
0:22:48	次に、背景地すべりによる津波との組み合わせが検討項目として明示されていないことについて、東北では発達しているものが見えているのに対して、南海トラフでは大規模な地すべりは見られないことが議論されたのところに關しては、
0:23:04	⑥。
0:23:05	プレート間地震の津波が非常に大きくなる原因として、海底の地すべりというものがあるわけで、
0:23:11	いうことは検討項目にはないが、何かそういう大規模な斜面崩壊といったものについてはいかがですかという質問に対して、
0:23:18	南海トラフの海底地域なども我々はよく調べてはいるか、可能性はもちろん否定できないが、大規模というところで起こしているかという、なかなかそこは見えていない。
0:23:28	以上より記載の整理結果の通り整理しました。
0:23:32	次の 20 ページは引き続き不確かさ考慮に関する確認結果です。
0:23:38	議事録等の記載から下の太字の記載の整理結果の通り、
0:23:42	南海トラフの最大クラスモデルは南海トラフの津波評価に影響の大きい滑り量等のパラメータを非常に大きく設定することにより、
0:23:50	津波評価に影響の小さい破壊開始点等のその他のパラメータの不確かさの影響を代表する方法で不確かさが考慮され、
0:23:58	少ない検討ケースで、南海トラフの全域を網羅する最大クラスの津波として想定されたと整理しました。
0:24:06	まず最初の南海トラフの津波評価に影響の大きい滑り量等のパラメータを非常に大きく設定のところに関しては、①から④の通りで、
0:24:17	①廃棄物のところは標高 2m 足した形で資料を整理している場を滑り域或いは超滑り域がない状況。
0:24:25	滑り量が約 10m のモデルで計算したものがこれですと、
0:24:29	概ね過去の地震のものと同ほぼ等価な高さになっている。
0:24:33	②。
0:24:34	従来 2003 年のときと今回の最大のものを比較した津波高っていうあれは。
0:24:39	これをつらつらと見てみると、今回、今回が大体 3 倍ぐらい大きくなっている。
0:24:44	③。

0:24:45	内閣府による投光器地震津波の再現モデルのライズタイムは 300 秒とされている。
0:24:51	④、赤いそのものは 2.5km毎秒でライズタイム 1 分としている。
0:24:58	続いて、
0:24:59	津波評価に影響の小さい破壊開始点等のその他のパラメータの不確かさの影響というところに関しては、⑤、⑥のところ、
0:25:08	⑤破壊開始点について、ナカガワれていったもの、東から割れていったものに力を入れていったもの、それぞれ差がどのくらいあるのかということを検討した結果、津波高さの大きいところはほとんど同じである。
0:25:21	⑥。
0:25:22	プレート間地震の津波が非常に大きくなる議員として海底の地すべりというものがあるわけで、こういうことは検討項目にはないが、何かそういう大規模な斜面崩壊といったものについてはいかがですかという質問に対して、
0:25:35	南海トラフの海底知見なども我々はよく調べているか。
0:25:39	せよもちろん否定はできない規模というところで起こしているかという、なかなかそこは見
0:25:45	耳
0:25:46	代表する方法で不確かさが考慮されたところに関しては、⑦と⑧の通りで、
0:25:52	⑦。
0:25:53	滑り量と比例する面積は最大クラスにするということで、非常に大きくした。
0:25:59	今度ここで滑り量と比例する応力降下量もまた御安心して、次もCIGMAにしてということをごとまで繰り返すかということについては一度議論しておかないと、もっとこうもなく大きなものを作っていつてしまつて、それがどんどん近日から離れていつてしまうようにも、
0:26:15	⑧。
0:26:17	最大クラスモデルは余りに掛け算を大きい側で質疑できる行き過ぎている面は否定できないので、
0:26:23	例えば標準モデルに対しての津波の変動は最大のものと同べれば、その中におさまっているからという言い方ができるという。
0:26:32	少ない検討ケースで、南海トラフの全域を網羅する最大クラスの津波として想定されたのところに関しては、
0:26:39	⑨から⑪の通りで、
0:26:41	⑨。
0:26:42	すべてを評価するという必要がおそらくはない。
0:26:45	全体を網羅したようなモデルを 1 個考えればいいのではないかと思う。

0:26:49	あまり複雑にせずに、なるべくシナリオ単純にする。
0:26:53	⑩。
0:26:55	基本的には、滑り量約 20mの滑りのもの、それから滑り量約 40mの超滑り調整にはこれまで 11 ケースで考えた。
0:27:05	⑪。
0:27:06	巨大地震の津波断層モデルとしては、滑り域とそのトラフ沿い側に超滑り域があるケースを検討することとした。
0:27:15	以上より、記載の整理結果の通り整理しました。
0:27:19	21 ページには、当社の整理結果に対する有識者の主な意見をお示ししていますか、位置付け抑える検討しまして参考扱いとしました。
0:27:29	22 ページは、①のまとめにして内容の変更ありませんが、再度説明します。
0:27:36	下の黄色の箱書きですが、
0:27:38	内閣府 2012 による南海トラフ最大クラスの痛みは当時の科学的知見をもとに、これ以上ない津波として歴史記録及び津波堆積物に基づく洪積高やその再現モデルと比較して検討されており、
0:27:52	自然現象にばらつきがあることも踏まえ、2012 名報告時点において、津波堆積物等に関する知見が限られていたことが議論され、
0:28:01	結果として、当時確認されていた次高を 3 倍程度で包絡する津波が想定されたと整理しました。
0:28:08	また、南海トラフの津波評価に影響の大きい滑り量等のパラメータを非常に大きく設定することにより、
0:28:15	津波評価に影響の小さい破壊開始点等のその他のパラメータの不確かさの影響を代表する方法で不確かさが考慮され、
0:28:24	少ない検討ケースで、南海トラフの全域を網羅する最大クラスの津波として想定されたと整理しました。
0:28:31	なおこの内容は前回説明した当社の説明内容及び有識者の主な御意見とも整合しております。
0:28:40	23 ページからは、
0:28:42	②。
0:28:43	内閣府の各海域の巨大地震モデル検討会の検討内容の確認についてです。
0:28:48	変更内容は 26 ページからになります。
0:28:51	26 ページをお願いします。
0:28:56	26 ページは、内閣府の過去地震資料の調査結果を示していますが、

0:29:01	前回のヒアリングを踏まえ、箱書きの三つ目の最後の記載について、語尾のところ推定できることを示唆するという表現に適正化し、ほかのページの該当箇所の記載を修正しました。
0:29:14	31 ページをお願いします。
0:29:21	31 ページは②のまとめになりまして、内容の変更ありませんが、上の箱書きから読み上げます。
0:29:28	2020 年 4 月に公開された日本海溝千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会の概要報告を含め、内閣府による各海域の最大クラスの津波に関する検討内容を確認した海域の最大クラスモデルの波源設定に係る考え方を整理しました。
0:29:45	下の黄色の箱書きですが、
0:29:47	内閣府によるが海域の最大クラスの津波は南海トラフの最大クラスの津波と同様、その時点の最新の科学的知見に基づき、あらゆる可能性を考慮した津波として歴史記録、津波堆積物等に基づく洪積だかやってその再現モデルと比較して想定されていることがわかりました。
0:30:06	内閣府 2012 では 2012 年時点において、津波堆積物等に関する知見が限られていて、今後、より多くの地点で調査が行われる必要があるとされており、
0:30:17	結果として、当時確認されていた痕跡高を 23 倍程度で包絡する津波が南海トラフの最大クラスの津波として想定されました。
0:30:26	その後、内閣府 2020 では 2020 年時点までに実施された波堆積物の調査資料から大体クラスの津波を推定できることを示唆するとされており、
0:30:37	確認されているすべての痕跡高を再現する津波が日本海溝千島海溝の最大クラスの津波として想定されていることがわかりました。
0:30:47	32 ページからは、③南海トラフの津波堆積物等に関する最新知見の整理結果についてです。
0:30:55	変更箇所は 33 ページからになります。
0:30:59	33 ページですが、
0:31:01	南海トラフと遠州灘沿岸域の調査結果を 1 枚のスライドでお示しするようにしました。
0:31:07	前回までは左側の南海トラフ沿岸域の調査箇所と日本海溝千島海溝沿岸域の調査箇所の二つの図しか計算していませんでしたが、
0:31:17	右上に敷地が位置する
0:31:19	遠州灘沿岸域の調査地点を追加するとともに、
0:31:22	右下には 500 年間隔地震の痕跡が確認されているとか地周辺の調査し、調査地点の図を掲載し、同じページで確認できるようにしました。

0:31:33	34 ページにつきましても同様に右側に示す敷地が位置する遠州灘沿岸域の調査地点の増追加し
0:31:41	内閣府 2012 が確認した津波堆積物調査から 2020 年時点までの津波堆積物調査の部屋に南海トラフの沿岸域とともに、
0:31:51	敷地が位置する遠州灘沿岸域においても、波堆積物の調査資料が拡充されたことが、同じページでわかるようにしました。
0:32:00	35 ページと 36 ページは南海トラフ沿岸域及び敷地が位置する遠州灘沿岸域の津波堆積物調査箇所をお示ししています。
0:32:10	今回、通し番号をつけて箇所数を読み取れるようにしました。
0:32:15	また 36 ページの遠州灘沿岸域については、ボーリング等の詳細な調査地点数も記載しました。
0:32:22	39 ページをお願いします。
0:32:28	39 ページには南海トラフの最大クラスの津波と痕跡との比較を示していますが、
0:32:34	今回、左の図の波堆積物の評価に関する注釈について、その詳細説明をしている資料との紐付けを行いました。
0:32:43	41 ページをお願いします。
0:32:47	41 ページは、③のまとめてないように変更ありませんが、下の黄色の箱書き読み上げます。
0:32:54	南海トラフにおいても、2020 年時点までに津波堆積物調査が進展し、津波堆積物の調査資料が大幅に拡充されていることを確認しました。
0:33:05	内閣府 2020 では 2020 年時点まで実施された津波堆積物の調査資料から最大クラスの津波を推定できることを示唆するとされていることを踏まえると、
0:33:15	2020 年時点までに実施された南海トラフのいずれの地域の調査資料からも内閣府 2012 による最大クラスの津波が発生した証拠は見つかっていないことから、南海トラフの全域においてその功績を見逃しているとは考えにくく、
0:33:30	内閣府 2012 による最大クラスの津波は発生していないと考えられます。
0:33:36	内閣府 2012 による南海トラフの最大クラスの津波想定は 2020 年時点までの津波堆積物に関する最新知見を含めて確認されている好きだかを一旦倍程度で包絡する津波となっており、
0:33:49	津波堆積物の調査資料が拡充された 2020 年時点で考えると極めて保守的な津波想定になっているといえます。
0:33:59	42 ページからはあるような津波堆積物等に関する最新知見を踏まえた波源パラメータの再確認についてです。
0:34:07	こちらに変更箇所のみ説明します。

0:34:11	43 ページに検討方針をお示していますが、
0:34:15	先ほど説明しまして、示しました通り、
0:34:17	概略パラメータスタディの結果選定したモデルに対して、基準断層モデル 1E という名称を追記しましたので、それに伴う修正をしております。
0:34:27	また、箱書き一つ目の 2 行目の遠州灘因果遠州灘沿岸域の公的再現モデルについて、
0:34:35	下の※2 に、
0:34:37	第 717 回審査会合までは既往津波モデルとしていたが、No.1 コメント回答に伴い名称変更したという注釈を追記しました。
0:34:47	45 ページですが、
0:34:48	遠州灘沿岸域の津波高と洪積高の比較の図について、
0:34:53	縦軸の範囲を 25m として各ページ間で統一します。
0:34:58	井島まして、49 ページになりますが、
0:35:02	こちらも同様にパラメータスタディによる海岸線の津波高と歴史記録及び津波堆積物から推定される津波高との比較において、
0:35:12	グレーの線ですが、基準断層モデル 1 という名称を追記しました。
0:35:18	50 ページは、④のまとめです。
0:35:21	上の箱書きですが、
0:35:22	学習パラメータの網羅的検討による方法により検討しているプレート間地震の津波評価について、
0:35:29	内閣府 2020 では津波堆積物の調査資料から最大クラスの波を推定できるとされているとともに、
0:35:36	南海トラフ沿岸域でも 2020 年時点までに網羅的に実施されたかみたいな物調査によって超長期にわたる津波堆積物の調査資料が拡充されていることを踏まえ、
0:35:48	オフィサー家モデル及びパラメータスタディとして設定した波源モデルの妥当性を再確認しました。
0:35:55	黄色の箱書きですが、
0:35:57	プレート間地震の波源モデルは、その妥当性を内閣府の最大クラスモデルに依拠するのではなく、
0:36:03	敷地が位置する遠州灘沿岸域を痕跡再現モデルをベースとし、
0:36:07	国内外の地震の発生事例を踏まえてパラメータを設定しているが、その設定のベースとしている遠州灘沿岸域の公的再現モデルについて、2020 年時点までの津波堆積物に関する最新知見を含めても、遠州灘沿岸域の公的高を概ね再現できることを確認し、

0:36:25	数値計算に用いたモデルの妥当性を確認しました。
0:36:30	内閣府 2020 及び南海トラフにおける 2020 年時点までの津波堆積物の調査資料の大幅な拡充を踏まえると、
0:36:38	2020 年時点までに確認されている痕跡高を再現する遠州灘沿岸域の功績再現モデルのタニが最大クラスの津波として想定されるどころ、
0:36:48	保守的に、国内外の地震の発生事例を踏まえて、各種パラメータを大きく設定して、
0:36:54	各種パラメータの網羅的検討による方法を持ち、
0:36:59	結果的に遠州灘沿岸域の痕跡再現モデルの津波を 3 倍程度上回る不確かさを考慮したパラメータスタディを実施していることを考えると、自然現象にばらつきがあることを踏まえても十分に安全側の評価となっていることを確認しました。
0:37:15	51 ページはコメント回答のまとめです。
0:37:19	ここまでの①から④の検討のまとめの説明と重複するため読み上げませんが、
0:37:24	上の箱書きにコメント内容、下の箱書きにコメント回答のまとめを示しております、
0:37:30	コア機能文字に赤青緑と色づけしておりますが、この色がコメント内容とその回答の対応関係を表している。
0:37:39	上の箱書きのコメントの太字箇所の裏返しで、一番下の異常からそういう結論を記載しております。
0:37:48	54 ページをお願いします。
0:37:53	54 ページはプレート間地震の津波評価のまとめですが、
0:37:57	こちらも先行サイトに合わせまして、概略パラスタの結果選定したモデルに対して、基準断層モデル 12 という名称を追記しました。
0:38:07	本日説明はしませんが、この回答の後ろのページに掲載しているプレート間地震の津波評価本体の概略パラスタ結果等の該当箇所にも同様に基準断層モデルという名称を追記しております。
0:38:20	56 ページをお願いします。
0:38:24	56 ページから 59 ページの浜岡原子力発電所の津波対策との関係につきまして、
0:38:31	アイドルにNo.1 コメント回答参考という文言を追記し、No.1 コメント回答の参考扱いであることを明確にしました。
0:38:40	また、滑り量 32mライズタイム 60 秒のモデルについて、その詳細を掲載している。

0:38:48	補足説明資料との紐付けを行いました。
0:38:51	最後、ページが飛びまして、75 ページをお願いします。
0:39:03	75 ページですが、遠州灘沿岸域の降水再現モデルの検討方針について。
0:39:09	左側の調査結果の記載をこの後御説明します歴史記録及び津波堆積物に関する調査についての資料と整合させております。
0:39:19	プレート間地震の津波評価については以上になります。
0:39:31	中部電力ナガマツです。
0:39:33	続いて、歴史記録及び津波堆積物に関する調査について、前回のヒアリングからの修正点を御説明します。
0:39:40	3 ページをお願いします。
0:39:46	コメント一覧表についてはコメント 2 市 1 などの黒いラベルを追加し対応するページとの関係をわかりやすくしました。
0:39:55	21 ページをお願いします。
0:40:02	1.3 市町の津波堆積物に関する現地調査では、
0:40:06	前回ヒアリングでサグチさんから、敷地の調査地点にタニ地形があったというエビデンスはどこに記載されているのか確認したいという確認がありました。
0:40:14	25 ページをお願いします。
0:40:18	今回発電所開発愛知県の解像度を上げるとともに等高線の標高 10mを
0:40:25	20mを緑 30mオレンジ 40m赤に着色しました。
0:40:30	これにより、過去の地形の山になっている部分になっている部分が見えるかと思えます。
0:40:36	各調査箇所の詳細は後程説明します。
0:40:40	続いて 26 ページをお願いします。
0:40:43	前回ヒアリングでタニさんより、
0:40:46	津波堆積物の抽出方針をもっと具体的に示して欲しいといった確認がありましたので、今回こちらのボーリング試料の観察分析の方法を追加しました。
0:40:56	上の箱書きですが、
0:40:57	ボーリング調査を実施し、採取した試料の観察により、
0:41:01	人堆積物及びふう精査堆積物中に侵食や堆積の乱れ等が認められる地層について、津波堆積物に見られる特徴そうそう面的な分布供給減を踏まえて、津波起因の可能性が否定できない堆積物、
0:41:17	イベント堆積物を津波堆積物と評価しました。
0:41:21	ここで早々とは、
0:41:23	やはり上の図のように、津波の押し波、引き波によってできる堆積構造で、
0:41:28	右上の表に記載したように、

0:41:30	砂ベキが混入する。
0:41:33	職員室中途や泥の履歴を含む。
0:41:37	名に明瞭な削り込みが見られる。
0:41:40	押し波、引き波時間間隙を示す堆積構造が見られるといった特徴をさせいたします。
0:41:46	面的な分布は左下の図の柱状図のように、
0:41:50	左の海側から右の陸側にかけて連続的に堆積する特徴を指します。
0:41:56	また、供給元は主に海岸付近や海域の碎屑物が供給元となるとされており、
0:42:02	こういった特徴を踏まえて、津波堆積物を評価しています。
0:42:07	27 ページには、イベント堆積物として抽出したコアの観察例を示します。
0:42:13	やはり前回までも示していただこう写真。
0:42:16	右側が今回追加したイベント堆積物の特徴を記載したもので、
0:42:21	本ページでは、これらを対比して示しています。
0:42:24	またこれに関連して、
0:42:26	補足説明資料のボーリングコア写真について、
0:42:30	詳細の観察結果を追記しましたので、必要に応じて御確認ください。
0:42:36	30 ページをお願いします。
0:42:40	こちらの左下には、先ほど着色した平面図の知識西側部分の拡大図を
0:42:46	31 ページのほうには引き継ぎ東が部分の拡大図を示します。
0:42:52	31 ページのこちらの敷地 1 を中心とした黒線に沿った断面図が上の図となっています。
0:43:00	絵面図の赤線、オレンジ線から敷地 6 から 7、17 の周辺が愛知県に位置していることがわかります。
0:43:08	これに沿って、青の矢印で示したように、標高の低い東側から津波が浸入したものと考えています。
0:43:16	また、上の断面図の各ボーリング。
0:43:19	3 が基盤の標高となっており、
0:43:22	こちら西に向けて上がっていくことがわかります。
0:43:26	またいろいろふう精査の方を見ても、応用の傾向となっており、地形が大きく変わっていないと考えられます。
0:43:33	なお、前回ヒアリングでカイダさんから。
0:43:37	12 号が断面図にないと確認いただいていたので、今回は敷地を中心として、敷地 2 号側の断面を追加するとともに、
0:43:47	これまで省略していた敷地 10、1112 も加えています。
0:43:53	32 ページをお願いします。

0:43:57	敷地周辺の縄文海進期の最高海面高度の現標高の評価について、
0:44:02	前回ヒアリングでカイダさんより、
0:44:05	次は 198 以外の文献はないのかといった確認がありましたので、
0:44:11	今回、藤原イトウ 2010 を追加しました。
0:44:15	上の箱書き 2 ポツ目。
0:44:17	次は 2000 円って藤原イトウ 2010 による地殻変動調査からも箴川周辺の縄文海進期の最高海面高度は現標高で 6.4 から 6.9m 程度と推定されています。
0:44:30	変更点に関する御説明は以上です。
0:44:33	ほか大筋の説明に変更はございませんので説明は省略いたし
0:44:39	以上です。
0:44:43	はい。原子力規制庁のサグチですご説明ありがとうございました。
0:44:47	以上で説明自体はすべて終わりということによろしいですね。
0:44:55	中部電力アマンでございますはい、説明は以上で終わりになります。
0:44:59	はい。規制庁もサグチですけども、了解しましたこちらのほうからですねいくつかまず私のほうから確認をさせていただきたいと思います。
0:45:11	まず本体資料といいますかね、プレート間地震の津波。
0:45:15	評価の資料の
0:45:17	まず 3 ページなんですけれども、
0:45:20	前回からこれ追加をしていただいて全体の
0:45:27	津波評価の概要っていうのがまずわかりやすくなったとは思いますが。
0:45:35	御社基本的には津浪評価っていうのは独自に設定をした、まず遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル、
0:45:47	いうものをベースにそれぞれ国内外の知見なんかも踏まえて、それぞれパラメータスタディを最終的に
0:45:58	そういうまず流れでよろしいですね。
0:46:05	。
0:46:08	中部電力モリです。おっしゃる通りでございます。
0:46:12	はい規制庁サグチですありがとうございますとわかりましたので。ちょっと
0:46:19	このページで
0:46:22	多分、今日の御説明は今私が言ったような形で基本的には一番最初の
0:46:29	津浪。
0:46:31	違うわ。
0:46:32	痕跡再現モデルですね、これは独自に設定をされたと。
0:46:38	ということなんですけど、ちょっとここをもう少し詳しいところをちょっと確認させていただきたいと思うんですけど。

0:46:46	すぐ下に(1)のところであって、ベースとする再現モデルにはっていうところで、
0:46:53	内閣府 2012 による、
0:46:56	云々とあって、
0:46:59	その妥当性を確認したと。
0:47:04	ということなんですけれども、実際にはこれ、
0:47:09	どういう形で、
0:47:11	設定をして、
0:47:13	で確認をされているのか。
0:47:15	ていうのを、
0:47:17	ちょっと資料だと多分、
0:47:20	70
0:47:23	ロック。
0:47:25	ページ目以降に多分この津波再現
0:47:28	モデルの何か設定っていうのが多分あったと思うんですけど。
0:47:35	どの辺で、まず、
0:47:40	何を使って、これを設定して、
0:47:44	確認をどういう形でされたのかっていうの。
0:47:49	御説明いただけますでしょうか。
0:47:56	はい、中部電力 Mori です。
0:47:59	サグチさんのおっしゃる通り具体的な設定のフローについては 76 ページにお示ししている通りでございます。で、3 ページのところ、片括弧 1 で記載させていただいたのは、前回単価工夫からどこを
0:48:16	持ってきてるのかというな、ここにもあったために記載している部分でございます。
0:48:23	どこ。
0:48:24	はい。的に少し 76 ページで説明させていただきますけれども、設定フローというか設定の方法としては、まずあの痕跡再現モデルを特性化モデルとして設定していくというのを基本方針としています。
0:48:40	で、
0:48:41	なおかつ日
0:48:44	どう。
0:48:45	左の痕跡再現モデルの図もございますけれども、その際に少し書い小さく書いてございますが、遠州灘沿岸域痕跡はたくさん
0:48:58	幾つかのイベントの痕跡がございますので、それらを 1 ひとつ思っ特性化モデルで再現するということを目指してございます。

0:49:06	設定フローですが、A1 から 8 の順番に特性化モデルとして順番に設定していく流れとしていまして、ワンパス波源域の設定として、過去地震に基づいて設定するよう滑り期もM8 クラスのモデルですので、AO滑り域を 20%全面積の 20%で設定すると。
0:49:28	で、平均応力降下量を何らか設定をするというところで、この数字を幾つにすればいいかというところを痕跡と合わせる形でAパラメータスタディをしているというものです結果としては 1.7 メガという数字で滑り量を設定すると。
0:49:45	概ね痕跡を再現できるということを確認してございます。
0:49:49	(4)で剛性率の設定、(5)で平均滑り量の設定でスケーリング則に基づいてこの辺りを設定していってございます。
0:50:00	で、滑り分布の設定ということで、南海トラフ静プレートAフィリピン回プレートの沈み込み速度が東から西で大きく違ってございますので、ここについては反映するべきということで、内閣府の
0:50:16	フィリピンがプレートの沈み込み速度の調査結果がございまして、そちらを使って滑りを設定してございます。
0:50:24	そのSBO設定が終わった段階で、モーメント間口が出ますので。そこを算定するとともに、動的パラメーターについても、これまでの知見から破壊開始点は、滑り域の中央の
0:50:41	20km付近で破壊伝播速度については、南海トラフの状態に基づいて議論をライズタイムについても南海トラフの既往地震の分析を踏まえて、60 秒というふうにご設定をしております。この結果から既往津波の再現性を確認していくと。
0:50:58	ことで、その確認結果が 70。
0:51:01	7 ページにございます。
0:51:06	設定したモデルが左側にあつて、その津波評価結果と痕跡高との比較を今回実施した津波堆積物の青線とも比較してございますけれども、右側にございまして、
0:51:22	幾何平均としてはK0.95 幾何標準偏差としては、/day1.4 ということで、秋田の指標の範囲内にあつて、
0:51:34	印象の沿岸域のすべての痕跡の概ね再現するということを確認しております。
0:51:40	このことから、エーツ痕跡再現モデルの妥当性確認したというふうに考えてございます。以上です。
0:51:51	はい。規制庁のサグチですけれども御説明ありがとうございます。今ちょっと聞く限りでは、この 3 ページに書かれている。
0:52:02	もっとはちょっと違うような私は印象を受けたんですけれども、
0:52:11	といたしますのは、
0:52:12	3 ページのか。

0:52:14	片括弧 1 っていうのは、
0:52:18	ちょっとよくわからないのは、結局この内閣府 2012 人おる。
0:52:24	この沈み込み速度の調査結果っていうのをを使って設定して、
0:52:31	で、この再現モデル自体の妥当性を遠州灘の
0:52:40	痕跡ですか、これと比較して妥当であるということを確認したと。
0:52:45	今そういう多分そういう説明だったと思うんですけど。
0:52:50	なので、
0:52:52	なんかこう書かれているとする沈み込み速度、
0:52:57	の調査結果も含めてその妥当性を確認してみたいにも読めたりはするんですけど、実際にじゃあベースとなるのは完全に御社オリジナルでいろいろ試行錯誤をして決めたわけじゃなくて、特に滑り量の分布っていうのはこれ、
0:53:14	内閣府 2012 をそのまま用いていると。
0:53:18	いう理解でまずよろしいですか。
0:53:28	はい、中部電力モリです。沈み込み速度が違うところから沈み込み速度の調査結果内閣でございますので、それから内閣と同じように今設定していくと、結果として滑り量も同じになっていると。
0:53:43	いうことです。なので、同じ知見に基づいて当社独自に設定はしているものを内閣府も同じことをしてますので、結果として同じになっていると。
0:53:55	いいことでございます。
0:53:57	。
0:53:58	はい規制庁サグチです。今の御説明だと同じような知見を内閣府 2012 と使っているの、結果として同じようなものになっているという御説明だと思うんですけど、じゃあ、その
0:54:13	同じようなものを使う。
0:54:15	という
0:54:17	何て言うんですかね。
0:54:22	判断に至った経緯みたいところで、多分どこにもないんじゃないかなと思って今のままだと少なくともこれ内閣府 2012 に基づいて設定されたというふうにも読めちゃうんですけど、そのあたりどう実際どうなのかちょっと教えていただけますでしょうか。
0:54:41	中部電力アマンでございます。すいませんちょっとまだ誤解があるような気がして先ほど森がごんと説明した通り、当社が所などの痕跡再現モデルっていうのを実施しておりますこれを策定する過程において、

0:55:00	滑り量沈み込み速度の分布という知見を内閣から引用してますが、このモデルの滑り量っていうのが内閣府オオノ 2012 のどっかにあるかというか全くなくて、これは当社オリジナルでつくっております。
0:55:16	滑り込み速度比例だということと
0:55:20	メッシュ大体 20kmぐらいのこの一番小さいの 5kGyのメッシュの設定は、地形通す見込み速度の設定。
0:55:30	は知見として取り入れてますが先ほど森が申し上げた通り、欧米遠州灘を再現しようというモデルは、1.7MPaという数字でやってますのでこれによる滑り分布っていうのは、内閣府 2012 どこにも、
0:55:46	出てなくて、内閣府が平均モデルって出してるのは 1.2MPaだとか、2.2MPaだとか全く違うものでこれは中部電力として、この一番、
0:56:00	当社浜岡に影響が大きかったであろう既往痕跡を再現するために、独自にやっているというふうに考えてございます。
0:56:13	規制庁サグチです。別にそれがいいとか悪いとか当然この場で議論するつもりはなくてですね、少なくとも御社のお考えを今確認をさせているいただいたる状態なんですけど。
0:56:26	でも、いずれにしても御社今先ほど御説明ありましたけれども、もちろん内閣府 2012 とは全く別のモデルであるんだけど、その考え方自体については、投資をした。
0:56:41	要は、御社がいろんな知見を引っ張ってくる中で、知見の一つとして、内閣府がこの滑り、プレートの沈み込み速度に比例するように設定をされているところということも踏まえて、
0:56:57	そこを踏襲して今実際に、実際のその滑り量の分布ですとかそういうのは内閣府 2012 と当然違いますけれども、考え方については踏襲したと。
0:57:07	いう理解でよろしいですかね。
0:57:14	はい、中部電力モリでございます。おっしゃる通りでございます。結果としてその遠州灘沿岸域の痕跡再現モデルが東から西に滑りとか沈み込み速度が変わっているということを踏まえて設定した結果再現性がよかったということもあるので、
0:57:31	モデルとしても妥当じゃないかということ当社としても確認しているというところで、内閣と同じだからいいというふうに思っておりませんで、結果同じだったということでありましてけれどもその妥当性について確認しているというふうに考えております。
0:57:46	規制庁のサグチです。ありがとうございました。一応確認はできましたので、もう 1 個ちょっと関連してなんですけど。ちなみに、

0:57:56	の確認ですけど他にもう、例えばいろいろ設定法定多分あると思うんですよ、もちろんこれは先行サイトでいろいろ例えばAと設定がこういうふうはこの滑り量の分布を、
0:58:11	を設定しましたっていうのも多分あるので、そういうものっていうのは検討された上で、これが一番妥当じゃないかっていう判断をされたのか、それともそういう検討っていうのは特にされてないのかちょっとそこを教えてください。
0:58:33	中部電力の森でございます。申し訳ないんですけどそのような検討しておりません。
0:58:38	78 ページ、もう少し見ていただきたいんですけどもちょっとこれだと直接のサグチさんの回答にはならないんですけども、実際痕跡再現モデルインバージョンモデルでも国は実施してまして、東海側の
0:58:54	右側のほうで二つあると思う中央防災会議 2003 が
0:58:59	過去地震、5 地震を再現したモデルとそのあとに何か工夫が同じく 5 地震の津痕跡高を再現するように、一緒に再現するモデルというのを作っているんですけども、どちらかと駿河湾内のほうには滑りがなくて、南海トラフ。
0:59:16	この中でも何回かに滑りが大きいところもあるので、滑り速度に比例しているということについては、こういうモデルからも見えているんじゃないかということで、内閣府の沈み込み速度にAの調査結果も踏まえてませ。
0:59:33	まず行ってみたといいところから痕跡を再現していたというのが出発点でございます。
0:59:42	はい、規制庁のサグチです。お考え方はわかりました。ただ、今多分そういうふう、どこにも書かれてなくて、今、
0:59:51	特にあんまりこう
0:59:53	内容詳しい内容がわからない人が資料見ちゃうと、どうしても内閣府 2012 を用いて設定したっていうふうにも見えるので、そこはですねきちんとその考え方、
1:00:04	とかも含めて、ちゃんとこういうふうはこの特性化モデルはつくっているんだよっていうのが明確にわかるようにまずは記載をしていただきたいというのと、それから、この妥当性の確認なんですけど、資料を見ると、
1:00:19	遠州灘沿岸域っていうものに限られていて、
1:00:25	多分そういうところも含めて御社があモデルの名前が遠州灘沿岸域の今世紀再現モデルっていう形で前回のヒアリングから多分変更。
1:00:38	されたんじゃないかなとは思ってはいるんですけども。
1:00:42	実際この遠州灘以外でも、その痕跡との比較みたいな。
1:00:49	っていうのはされていたり、
1:00:51	当然、今回 2020 年までの

1:00:55	新たな調査結果というか拡充というの、
1:01:00	またされてるんですけど、それとも関係、
1:01:04	比較っていうのは実際されているんですか。
1:01:14	はい、中部電力モリです。ここになんですけどイトウ 77 ページに記載している
1:01:19	当社の遠州灘沿岸域の痕跡再現モデルって、例えば、何回か四国なんか 再現できるのかということを確認しているのかということでしょうか。
1:01:29	はい、規制庁のサグチです。もちろんその資格四国もそうなんですけど、今の この遠州灘
1:01:37	付近に限っていつているので、それを例えば紀伊半島だったりするもそうです し、先ほど言われたような四国のところもそうなんですけど、これが少なくとも 今の御社のこの痕跡再現モデルというものを使ってどの程度
1:01:52	再現できているのかっていう確認はまずされているかどうかという確認です。
1:02:02	中部電力の森です。確認はしてございません。当社遠州灘沿岸域の 100 キロ の
1:02:10	こういうところに位置してますので遠州灘沿岸域にクローズアップして痕跡再 現モデルをつくっております。を特性化モデルは、
1:02:20	滑り量を見ていただくと、遠州灘のほうに紀伊半島はちょっとかかっているの で、再現性がもしかしたらあるかもしれないんですけども、寄せるようなモデル になっているので、
1:02:29	多分サグチさんをご存知だと思うんですけど、特性化モデル、例えば日本海溝 側の津浪を全部再現するようなモデルをつくれるかという、そうではなくて、 例えば滑り空港ずらしていったりだということをしていけば再建できるんじや ないのかというような議論が
1:02:46	内閣府令内閣じゃないですね、
1:02:50	地震調査委員会でもされていると思いますので、ちょっとこれで当行のほうま で再現できるかっていうところは多分できないという回答になろうかと思いま すけれども、もう少し広い範囲が松前できる可能性はあるかなというふうに思っ ています。
1:03:05	ただいずれにしろ当社の津波評価においては、当社敷地が位置する辺りがま た再現できるということがまず特性化モデル再現できることが最優先というふ うに考えておりますので、このような方針でまず痕跡再現モデルをつくった上 で、
1:03:21	そこからさらに不確かさを積み上げていくというような検討してございます。
1:03:29	はい。規制庁サグチです。確認がされ、されてないということを一応確認。
1:03:35	しましたけど、ちなみに、データ自体もないって考えてよろしいんですか。計算 結果ですね、計算は、

1:03:45	全部全域を計算するのでアウトプットをどこにするかっていう話はあるかもしれないんですけど、計算結果自体もなくて、比較
1:03:56	例えばしようとすると思うけど計算をやらなきゃいけないとかそうそういう状況であるってということなんですか、それとも、
1:04:04	計算結果自体はあるってことなんですかね。
1:04:08	中部電力アマンでございます。計算結果自体保存をその西側特に浜岡に直接影響のない四国へ紀伊半島までは保存をしてないので、必要であればもう一度計算をするということになるかと思うんですが、モデル自体は保存してあるので。そんな。
1:04:29	時間のかかる話ではないかなと思ってますんで、ちょっと先ほど来のご確認を中でやはり
1:04:38	冒頭の 76 ページの辺りで、なぜこういう形で内閣府の知見をどう考えて取り込みつつ、特性化モデルをつくったか或いは 77 でなぜじゃあ
1:04:53	遠州灘沿岸域をクローズアップして痕跡を再現するのかというその方向性がちょっと記載が足りないのかなというのが、ご確認の中で感じておりますので、そういったこの上流のところをしっかりと
1:05:10	書き込みをさせていただきたいなと考えております。
1:05:16	はい、規制庁サグチです。ありがとうございました。我々も当然
1:05:21	ここがある意味、出発点になっているのですね、ここがちゃんとやっぱり確認ができないと、この後も含めてちょっとやっぱり議論ができない部分もありますので、ちょっとその部分はきちんとわかるような形でお示しいただければと思います。
1:05:40	それで、今幾つか確認をさせていただきましたけれども、特に痕跡高の応答の比較についてはそんなに時間はかからないんですけどもアウトプットが今現時点ではないので、
1:05:55	これ比較をできないという状態っていうのはちょっと理解は、
1:06:02	しました。
1:06:03	ちょっと私だけじゃなくてほかの方もいろいろ確認する部分があると思いますので一旦ちょっと私ここで確認終わらせていただいて、別の方があれば、そちらの方に移したいと思います。
1:07:16	規制庁ナイトウですけれども、1 点確認なんですけれども、何で御社は、
1:07:23	この南海トラフふうんを再現する御社のモデルとして遠州灘周辺だけを再現すればいい。
1:07:32	という判断したんですけど、その考え方がよくわかんなかったんで。
1:07:45	電力アマンでございます。遠州灘見ていただいた通りで 1 名外界に面しております、この浜岡が直接津波を受けるであろうと影響が非常によく

1:08:01	なんです、特徴が似ていると、これは 77 ページ、78 ページを見ていただいてもそうなんです過去に講演であり、反省であり、いろんなパターンの南海トラフの地震というのを規定は、地震津波側の発生はしておるんですけどやはり
1:08:19	概ねこれぐらいの 5 から 10 メーターぐらいの痕跡ということと言うと、こちらを襲来する津波っていうのはこういった特徴を持っていると、であるという特徴を踏まえて、ここに遠州灘をしっかりと再現できることが浜岡への影響を
1:08:36	一番再現するんであろうというふうに判断してもらっております。
1:08:43	例えば 78 ページ。
1:08:46	なんかでちょっと数字しかないんですが、一番右の内閣府 2015 のモデルなんかっていうのは当然全域、これは宝永とかご自身をすべて再現するモデルとして設定されておりますので、
1:09:01	滑り量の分布としても、同じ東側のほうにもありますし、西側のほうにも期間というところでナカムラ 8.9 になってますが、
1:09:12	今回のデモ日本海溝の最大クラスモデルでもやはり津波の再現性手が一番影響を確認するっていうその前面にいかにか大きな滑り量が配置されてるかっていうのが影響が大きいということもわかっておりますので、そういった点においても、やはり
1:09:30	遠州灘にAO滑り域を配置するというところで痕跡再現をしてきているというふうに考えております。
1:09:41	もう少しほぼさせていただきますけれども中部電力の森です。
1:09:47	ちょっといつごろかな。
1:09:56	奇形的に演習内外機構外洋に面しているというところで、敷地が位置する浜岡と同じような状況がずっと海岸線と続いていくというところなんですけども、
1:10:10	ちょっと図がいいのかわかりませんが、77 ページで見ていただくっていう
1:10:18	どう御前崎より東側という駿河湾に入っていくんですけども、回らないってことをちょっとまた状況が変わってくると。
1:10:27	ということと、あと、まさに遠州灘沿岸域よりも西側に行くと、今度伊勢湾があったりだとか、時半島のほうに入っていくと入りやすく至近の会合があったりまた津浪の
1:10:40	遡上の影響なんかが変わってくると、当社のモデルとしてもこの辺りがそんなに
1:10:48	ヴィア組織の海岸を模擬できるほどのメッシュサイズが今設定されてないというところもあって、社員外気だけでも 100 キロ以上ありますので、この範囲について、
1:11:00	津波が同じように襲来してくるということと、十分所内概況見ておけば、

1:11:08	広い領域を見ていることになるだろうと滑り域の配置なんかを考えても同じ一つのモデルで再現できるだろうというところも踏まえてもこの辺りを設定しているというところが実情でございます。
1:11:37	はい。規制庁のサグチですけども、ちょっと
1:11:40	今のところですか。再度っていうかさらに確認をさせていただきたいんですけど、ということは基本的に御社っていうのは、遠州灘の津波の
1:11:50	高さ
1:11:51	いわゆる上昇側に着目。
1:11:54	されているという。
1:11:57	多分この痕跡だと思う引く比較なんで、結局そういうことなんだろうなと思うんですけど、という理解でよろしいですかね、津波の自体の長さというのは、特に今考えてもいない。
1:12:10	そういうことでよろしいですか。
1:12:20	規制庁サービスすいません言葉足らずで津浪の時間的な長さです。
1:12:25	というものは特に考えていないという、そういう理解でよろしい
1:12:32	中部電力の嘉門でございますけど、継続時間という意味でございます。
1:12:37	はい規制庁サグチです。その通りです。
1:12:42	最初の再現モデルを実施するにあたっては、当然、
1:12:47	77にもありますがその痕跡しかないもんですからそれがどれぐらいの間、起きていたかっていうところは当然我々として情報はないが、なかなか津波評価の観点において最初から
1:13:01	継続時間まではおそらく
1:13:04	考えてインバージョンとかもやられていないんじゃないかなと思いますが、まずは過去に起きたであろうその高さをしっかり再現できることをスタート地点にした上で、今回3ページで御説明してるいろんなパラスタで時間も考えているというところだと思ってます。
1:13:24	はい規制庁サグチです。これ以上当然の議論になるので、いや、御社が先ほどの説明。
1:13:31	されたのはあくまでも
1:13:33	影響の大きい特にその敷地周辺のところを見ていればいいという話だったので、その影響って何だろうなっていうのをちょっとお聞きしたんですけど、それは高さだけじゃなくて長さも継続事業も当然含まれてくる。
1:13:50	それじゃなくて単純にその痕跡高との比較であれば、別にその際、サイト周辺だけを比較するんじゃないくて、これは、

1:14:01	はげ波源モデルとかの妥当性という観点で見れば、別にサイト周辺のみを対象とする必要はないのかなという、
1:14:13	気がしたのでちょっと確認をさせていただきました。
1:14:36	規制庁サグチです。引き続き、ちょっと細かいところも含めて確認をさせていただきたいんですけど。
1:14:44	前回滑り量とライズタイムの関係で、
1:14:50	ロームに取りまとめ、その検討結果論文に取りまとめてそれを投稿して採択されたということなんですけど。
1:15:01	これちょっと教えていただきたいんですけど、具体的にこれ公開されるのっていつごろですかねというのと、結局これって公開されないと我々内容って全く確認できないんですけど。
1:15:18	何かその辺りちょっと教えていただけますでしょうか。
1:15:24	中部電力アマンでございます。10月ぐらいの海岸工学講演会論文集に出るんですが、サグチさんのところにうちに当然ありますので事前にお送りすることは全く問題なくできます。
1:15:42	はい。規制庁サグチです。
1:15:44	何か
1:15:45	ちょっとあんまり詳しいことわかりませんが、
1:15:50	なんて言うんすかね。当行当行採択され、どっちかな、公開されたらまた多分その著作権の話で、多分それ学会の著作権なっ
1:16:01	かなと思って。ただしその調査が聴者が
1:16:06	何か個人的に
1:16:10	配るって言ったら変ですけど、そういうのがいいのかなとか思ったり、ちょっとその辺りわからないので、もし御社が全然可能だっという話であれば、ちょっと我々としては少なくともその内容を確認を
1:16:25	させていただいて確認できないと本当に何かこう、
1:16:29	ところ同行して採択されましたっというだけで、我々も本当はちょっと言えないかなと思うんで、ちょっとそこをお知らせください。
1:16:38	中部電力アマンでございます。サグチさんのおっしゃる通りで、当淘汰と言ってますが、そのエビデンスを提出はしておりませんのもものとしては採択されたという、当然エビデンスがあるのと、
1:16:54	いわゆる今インプレスの状態ですので、ものはお送りしますよね中身を御確認いただきたいと思いますのでまた別途、サクサのタニ3ぐらいにメール等でお送りさせていただきますのでご確認の方よろしく願いいたします。
1:17:11	規制庁サグチです。すいませんじゃあよろしく願いいたします。

1:17:16	それで、あとちょっと何というんですかね。
1:17:20	もう少し大きな全体の話で今日ちょっと参考扱い定されたところで、
1:17:29	何ページでしたっけね、50。
1:17:38	50 何ページ目以降なんですけど、56 ページですね。
1:17:45	これ前回もそうだったんですけど、御社が一応独自にされたというか、プレート間地震の津波評価で最終的に今後御説明っていうことで、海底地すべりとの組み合わせ。
1:18:01	されているんですけど。
1:18:03	この海底地すべりっていうのは、
1:18:07	今までこう審査ですっとされてきている先行サイトでもやっているように、
1:18:11	まだ確定はしてないんですけど、
1:18:14	5月の会合やったときの
1:18:17	海底地すべりの一応チャンピオンケースとなると、大体6メートルぐらいのやつでした。
1:18:22	あれ等時間的なことも考えて組み合わせを実施をするという、そういう理解で用紙ですかね。
1:18:33	一部粘土化ものです。サグチさんのおっしゃる通りでございますんで、まだ最後海底地すべりのほうの審査が
1:18:43	山形さんからコメントあった、少し都道同時と一体となってるっていうところの表記の修正がございますのでその辺り再度審査会合で御説明した上で、概ね妥当という評価をいただきました上では、
1:19:00	プレート間と設定組み合わせの説明をさせていただきたいというふうに考えてございます。
1:19:07	規制庁サグチです。わかりました。ありがとうございます。それで、
1:19:11	参考にされたんで。
1:19:16	っていうところあるんですけど、その
1:19:18	57 ページで、
1:19:19	次の 57 ページ。
1:19:21	実はこれ、今日、
1:19:23	御説明一切なかった。
1:19:24	だと思うんですけど。
1:19:27	下の図って前回だと三つあって、
1:19:33	一番右、
1:19:34	前回の一番右の図ですよっていうのが今回なくなっていて、
1:19:43	縦

1:19:47	壁情報って言うんすかね。
1:19:49	ここの話が
1:19:51	粘り強い構造とCというところでちょっと文言も含めて変わっていて、
1:20:00	ただこれで
1:20:03	当然これから
1:20:05	作る。
1:20:07	ものであってその方針として、例えば前回からちょっと方針を変えましたとかいう話だったらわかるんですけど、総勢なんてもうこれすでにあるもので、
1:20:18	これ方針とか、変わったわけじゃなくて、この設計の思想というのが何か前回から、
1:20:25	今回変わってかけて変わったんですがこれ、ちょっとそこをさせていただきたいのと、もちろんここ、この図というのか。
1:20:36	今後のスライドをちょっと今後もずっと使い続けるのであればなんですけど、ちょっと教えてください。
1:20:46	中部電力アマンでございます。
1:20:48	御説明を割愛して申し訳ございませんでした。前は縦壁頂部っていうのが、
1:20:57	御背景大きく超過するような数字メーターの超過津波の時にはそこが先に倒れて、下が粘り強い構造で浸水
1:21:06	機能を抑制浸水抑制機能をちゃんと担保しますよという絵にしておったんですが、
1:21:13	なかなかわかりにくいであろうとかなってという話と、
1:21:19	こういった説明が資料に載っていく中で言うと、ご理解いただけない方からいろいろ
1:21:28	本質問等が増えるんじゃないかと少し社内で議論がありましてもう少しやりとりとさせたというだけの内容でございます。我々としてはもちろん物を作ってありますんで方針等は一切変わってなくて、見方として、
1:21:46	実質粘り強い構造で申請抑制機能を保つという思想には一切変わりが無いので少し見た目だけを変更させていただいたという位置付けでございます。
1:22:05	はい。規制庁サグチですけども、
1:22:09	一応お考えは今聞きましたけども、ちょっと前回、
1:22:14	まだこれ上がってないとわかんないんですけど、ここで言っちゃっているんで、
1:22:20	ちょっとこれは、
1:22:22	今後プラント側の審査とかそういう話にもなるのかもしれないんですけど。だから我々は特に
1:22:30	審査で、

1:22:32	の範囲外だと思っているんですけどもそれで。
1:22:36	ちょっと先ほど、
1:22:39	確認をさせていただいて、
1:22:42	すでにあるものですから、
1:22:44	前回、いずれにしても何かデータ思うと、今回のヒアリングで変わっていると、 ちょっとこれは、
1:22:52	考え方というのがカー基本設計も含めて、
1:22:56	きちんと、多分このままこれを使い続けるのであれば、多分説明が必要かなと思うんで。
1:23:06	ちょっと確認させていただきました。
1:23:44	すいません規制庁サグチです。引き続きちょっと細かい点で何点かちょっと確認をさせていただきたいんですけど、
1:23:54	前回からの変更、変更点を今日中心に御説明していただいたと認識しているんですけども、結構
1:24:07	軽微な記載の適正化とか統一とかいうところも含めて、今回多分修正をされている部分も大きいと。
1:24:17	認識していますけれども、
1:24:20	細かいところの記載で幾つか内閣府の最大クラスモデル等、
1:24:29	内閣府 2012 と混在をしていて、何か前々回までは再内閣府の最大クラスモデルだったのが今回内閣府 2012 とかって例えば 30 ページとかですわっていうのが変わったりしてるんですけど。
1:24:45	かといってすべてがこの内閣府 2012 に統一されてるかって言うかそういうわけでもなくて、いまだにその最大クラスモデルっていうことも書かれていて、何かその辺りって。
1:25:00	実際に書き分けをされているんでしょうか。
1:25:09	はい、中部電力モリでございます。明確にはちょっと書き分けられてない部分もあるかと思えます。サクサの御指摘の箇所もう一度教えていただいてもよろしいでしょうか。
1:25:20	本編の本編のっていうか、プレート間地震の津波評価の 30 ページの
1:25:27	一番
1:25:29	最初箱書きの一番最初これ多分、前回は内閣府、
1:25:34	によるなんか最大クラスモデルだとかかな。
1:25:37	というような
1:25:39	もうもんだったのが今回、内閣府 2012 とかっていうふうに
1:25:44	変わっ

1:25:45	だと思うんですけど。
1:25:47	そういう箇所が何ヶ所か多分、あるんですよ。
1:25:52	ただし一方で、
1:25:58	内閣府の最大クラスモデルというのが、
1:26:03	ちょっとページ数はすぐ出てこないんですけど。
1:26:06	朝、さっき言ったような 56 ページとかですね。
1:26:10	56 ページ一番上、
1:26:13	ほかには。
1:26:14	南海トラフにおけるない内閣の最大クラスモデルとか、ちょっとその辺が統一してあるのかそれともあえてこれ書き分けているのかっていうところをちょっと確認をさせていただきたかったんですけど。
1:26:29	はい、中部電力の森でございます。30 ページについては箱書きの部分。
1:26:35	でしょうかね、ほぼ
1:26:39	内閣府 2012 で割っているところについては、ここじゃないですかね。
1:26:45	規制庁サービスそこそこで一番最初のところ、多分、今回は内閣府の最大クラスモデルを記載だったと思うんですけど。
1:26:54	はい中部電力モリです。ここは最大クラスモデルはということではなくって、文献の記載を引用するようにしましたので
1:27:04	内閣府 2012 という
1:27:07	内閣府の検討会ではということで括弧以降の記載があるとその後の内閣府 2020 ではということで、括弧の記載があると前回この部分推定できることを示唆するという部分で指摘受けたこともありましたので、コアの文献の記載を
1:27:25	引っ張るように箱書きを適正化してまして、文献として引っ張るときには基本的に内閣府 2012 とか、2020 というのをつけてございます。入るとこのページの同じページのタイトルのほうで
1:27:42	内閣府のこのほど内閣府の最大クラスモデルというふうに書いているところもございませけれどもモデル名置いときに、あんまり 2012 っていうのをつけていないようにはしていますけれども、ちょっと統一とれていない部分はあるかもしれませんので、
1:27:57	再度確認させていただきたいと思います。
1:28:02	はい、規制庁サグチです。考え方はわかりましたの位置を使い分けられているということですね、確認はできました。
1:28:10	ちょっと細かいところも含めて、私からは、まず、
1:28:16	とりあえず以上です。

1:28:40	すいません規制庁サグチです。もう1点だけ確認なんですけど、25ページのほうですね、本体資料、
1:28:49	いくつか海域の
1:28:54	巨大地震モデル検討会なんですけど、それぞれの波源モデルとそれから最大クラスの津波想定の方ってあるんですけど。
1:29:05	この各検討会が言っている。ちょっと細かいことなんですけど、最大
1:29:11	クラスと呼ばれているものっていうのは基本的に位置付けは、
1:29:17	同じということなんでしょうかちょっと教えてください。
1:29:25	はい、中部電力メモリでございます。同じと認識しております。24ページに各検討会の位置付けというか、経緯を書いたページございますけれども、
1:29:37	まず厨房黄色で囲っている中央防災会議2011で最大クラスモデルを検討すべきというようなものが、国の報告として出されておまして、その中でどういう最大クラスとしてどういう設定をすべきかというところが、
1:29:53	書かれておりますので、それに従って各モデル検討会が最大クラスモデルっていうのを作っていただいておまして、内閣府2011でいう最大クラスの津波を想定したものであるということが各
1:30:09	モデルの報告検討会の報告書として書かれておりますので思想としては、以浅ぼつ中央防災会議2011に則って、各領域でそれぞれ検討されたものというふうに認識しています。
1:30:23	はい、経常昨日ありがとうございましたよくわかりました。
1:31:08	規制庁タニです。
1:31:10	ちょっと私の方、
1:31:13	津波堆積物、
1:31:15	この資料について、いろいろ追加してくれてることについて確認したいんですけど。
1:31:23	前回津波堆積物の認定の話を
1:31:27	どのようにしたのかっていうことに聞いたことに確認したことに対して、ちょっと説明が超えられて、
1:31:35	それと2、20。
1:31:38	26ページ。
1:31:42	追加してくれてるんですけども、
1:31:46	これちょっと一番最初の四角の
1:31:49	泥質堆積物を工夫精査堆積物中に侵食や堆積物の乱れ等が認められる地層についての特徴をここに書いてあるようなそうそうだとか平面的な分布だとか、供給元を、

1:32:05	踏まえて、
1:32:07	イベント堆積物を評価しましたという説明なんですけど、この踏まえてっていうのは、
1:32:15	なんて言うんですかね、例えば早々だったら全部、
1:32:18	こういう特徴を書かれてるんですけどこれ。
1:32:22	&条件なんですか。条件みたいなこの辺踏まえてっていうのがどう、どういう意味なのかをもう少し教えてもらっていいですか。
1:32:33	中部電力の西村でございます。
1:32:36	先ほどいただいた御質問ですが&なんかをなのかというところで、
1:32:41	基本的に文献調査をもとに整理してこちらのそうそう平面的な分布供給減について、津浪堆積物の特徴として、三つの項目をそれぞれ整理しております、それぞれが重要だと考えております。
1:32:56	理想的には全項目に該当したものというものを認定するのが津浪堆積物であると思いますが、
1:33:05	そういったもすべての特徴が残っているわけではないので、情報がないものについては、安全側に判断しているというふうに
1:33:14	判断してございます。以上です。
1:33:18	はい規制庁タニですっていうことはは条件のようなものでそれについては個別にボーリング孔写真の横に説明してくれてるっていうことでいいんですか。
1:33:36	中部電力ニシムラでございます。
1:33:38	はい、今タニさんがおっしゃった通りでございます。
1:33:41	はい、事実国にしましたと。それで、この何ていうんですかね最初に侵食や堆積の緑等が認められる地層についてっていうのまず認定して、
1:33:56	それを特長みたんだっていうことなんですけど、まずこの
1:34:00	乱れが認められる地層っていうのは、一通りこのコア写真とかで説明が加えられているっていうことなんですかそれとも
1:34:11	なんて言うんですかね、この順番を追って検討した仮定がどこを見たらわかるのかなっていう意味なんですけど。
1:34:19	乱れ等が
1:34:21	認められる地層は今のコア写真の中では何らかの説明がされてるっていうことでいいですか。
1:34:30	事務局ニシムラでございます。はい、以上。
1:34:34	誰や侵食等が見られている地層については、当社として説明書きをしてございます。
1:34:41	以上です。

1:34:42	規制庁タニです。念のため確認しますけどということは、ここに書かれてないところ、ここに説明書きがないところはもうこれは
1:34:52	侵食や堆積の乱れ等ではないんだということで理解しましたけどそれでいいですね。
1:35:00	はいその通りでございます。
1:35:03	確認できました。それで、もう1点確認なんですけどこれボーリングコアは一通りをついてるのがわかったんですけれども、
1:35:14	柱状図っていうのをこれまで出てたんでしたっけ。
1:35:21	中部電力ニシムラです。
1:35:23	中実に関しては、これまで、まだ出してございません。
1:35:33	すみませんそういうことであつたらですね、やっぱりこれどういう観察をされているのかちょっと確認したいので、一式出していただきたいと思うんですけど、準備できそうですか。
1:35:52	までに会合までに準備できそうですか。
1:35:59	すみません
1:36:03	どれぐらいかかるかということで、随分断層いつごろ会合にかけていただけるかをもう1回ヒアリング水位をすいませんテフロンです。まずは準備してください。お願いします。
1:36:18	はい。
1:36:21	私のほうは以上です。
1:36:45	規制庁のカイダです。私のほうも資料のちょっと確認だけAとさせていただきます。
1:36:53	今、もしわかればぐらいのことなんですけれども、津浪堆積物の資料のほうでいきますと、
1:37:04	例えば13ページ。
1:37:06	とか、14ページとかに
1:37:09	コンセクエンス津波堆積物の文献とかが2020年時点で大分増えたということで、今ここに掲載されている一覧があるかなと。
1:37:23	思いますんで、いろんなところで調査が増えてはいるっていうのは、
1:37:27	これで確認できましたが、例えば14ページとかで見ると、
1:37:33	中部電力さんの敷地の中の調査というのはどこまで津浪堆積物が上がってきてるかっていう観点でこう高いところまで準じ測線を持って調査されている、あそこは
1:37:48	今回の資料では確認はできるんですけども、
1:37:53	このほかのところのやつっていうのは、どっちかというところの低いところで、

1:37:58	特にどこまで上がってきてるかって言うよりも何かあるかないかをしっかり調べてるっていう
1:38:07	ようなところでされているようなふうにも見えるんですけども、
1:38:12	結局同列に扱えるような情報なのかっていうこと。
1:38:17	観点で、この辺りの論文というのは、
1:38:20	行けとかって書いてるな水みちとかって書いてるのはもう多分当然低いところでしかやってないと思うんですが、ほかのところとか、
1:38:29	どういった沢山あるので、
1:38:33	一言では言えないと思うんですけど、どういった観点で調査されているような
1:38:38	論文の情報を拾ってこられているのか、そこもし今わかれば教えていただけないでしょうか。お願いします。
1:38:51	中部電力のナガマツです。
1:38:53	まず文献をどうやって拾ってきているかという点についてはですね敷地周辺の遠州灘沿岸域についてはなるべく見落としのないように、下に書かれているように、各技術系論文データベースをもとになるべく網羅的になるように、
1:39:10	ちゅ集をしてあります。で、地域としては同列に見れるのか高いところまで覚えてるのかどうかという観点で言いますと、例えば浜松部屋の辺りに肌色のプロットがいっぱいあるってんですとか、田川低地
1:39:29	のピンクのプロットがいっぱいあるって、あと、その他の東側のオオツ化の破線で囲ってあるって、こういった点については、
1:39:39	砂丘浜堤を大きく超えるような津波が確認されないという形で面的に過去の歴史記録を大きく超えるようなものが確認されてないっていうのを広めのエリアでとって物がそのています。
1:39:55	そういう意味ではもう並列で考えてもいいかなとは思っております。それが書いてあるのが 10
1:40:03	5 ページ。
1:40:04	2、
1:40:06	こちらは
1:40:09	藤原ほか 2013 の文献の記載なんですけども。
1:40:13	海側から浜堤が並んでいて、それを大きく超えるような津波は確認されていませんということが書かれております。
1:40:25	左下の。
1:40:28	ボーリング柱状図の断面を見ていただきますと、
1:40:31	えっと海側から陸側に並んでますけども、津浪堆積物は陸側に向ける真ん中ぐらいで途切れていると、ここまでしか津波が到達してないだろうと言われて、

1:40:45	わかりましたじゃ、この浜松のところの
1:40:49	とか田川低地のこの調査のところについては、こういった情報、
1:40:55	からも拾っているということで承知しました。
1:40:59	ありがとうございます。
1:41:17	規制庁サグチです。すいません。ちょっと先ほど私、確認をし忘れたので1点今のところに関連してなんですけど。
1:41:25	津浪堆積物調査では13ページで
1:41:32	その評価を、のところでは35ページなんですけど、
1:41:38	これ、
1:41:39	分権というのか、津波堆積物調査に、
1:41:44	関係する今文献とされてるんですけど、この調査地点というのか、これ前回ヒアリングからこれ
1:41:52	変わってますよね多分説明、多分ちゃんとしていただいていたと思うんですけど、ちょっと教えてください。
1:42:06	中部電力ナガマツですと変わった点等をしましてはですね。通し番号今回前回内閣府の白色の表等2010年としてまで確認するといったピンク色の表で番号がちょっとそれぞれ1からスタートしてって、
1:42:23	認められるなんて言ったのを、今回、
1:42:26	東りの難波に並べたんですがその過程でちょっと店名を見直しているところがあたりはしますと、例えば内閣府2012の浜名湖13番ですとか14番。
1:42:41	の名称が変わっていったりですとか、
1:42:44	あとは、遠州灘沿岸域も、
1:42:47	右側の表の一番右の70か80ページ、85番のナンバーが追加されていて、
1:42:55	ですとか、あとちょっと文献として漏れがあったものをちょっと今回追加しているものが一部ある。
1:43:03	という形です。
1:43:07	やはり正常先アクセス多分その部分で多分県の漏れというのがあって、
1:43:13	所平川2013っていうのは前回までなくて、平川2013っていうのがAというところの調査地点ですか、これが多分、
1:43:23	増えているんじゃないのかなと。
1:43:26	一方で、
1:43:28	前回ですね。
1:43:29	このなんていうんですかね。
1:43:32	うちの今回の資料で言うと51番の内之浦等、
1:43:37	52番の使用の岬、

1:43:40	の間にですね。
1:43:43	南海トラフプロジェクト報告 2016 による
1:43:48	何か高校の工程みたいなのところがあったんですけどそれって、
1:43:52	名前が変わっただけなんですかそれともなくなってなくなっちゃってるんですが、ちょっと教えてください。
1:44:00	中部電力ナガマツです。今回通し番号見直す過程で、実は内閣府 2012、この辺ちょっと調査地点が密集している地点でもありますして口座高校工程っていうのが内閣府 2012-8 番に当たるものだったということと後、
1:44:19	2020 年時点まで確認された地点としては、逆に長く 2012 に載せてあった潮岬っていう部分が 2020 のほうにいつてるっていうことはちょっと入れ替えが申し訳ありませんありました。
1:44:33	いや、サグチです。わかりましたけどじゃ、さらに確認なんですけどその内閣府 2012 によるこの口座こうこう工程と
1:44:43	南海トラフプロジェクト 2016。
1:44:48	の口座高校っていうのは全く一緒に、
1:44:52	というということによろしいですよ。
1:44:59	はい、おっしゃる通りです。
1:45:02	はいサグチです。わかりました、ありがとうございます。
1:47:01	規制庁タニです。
1:47:03	ちょっと
1:47:05	これを教えて欲しいの話なのかもしれないんですけど、津波堆積物の 25 ページ。
1:47:12	タニ管、
1:47:15	あったという説明ですね、これって、
1:47:21	タニがあったっていう話は多分 6000 年前とかそういう話でしたっけ。
1:47:27	津浪堆積物の地層っていうのは、そういうかなり古い時代の話をしているのと、この今の地形を比べていいもんなんでしょう何かこういう工法はまってみたいなのは、
1:47:42	ずっと変わらないっていう、何かあるんですっけ。
1:47:50	中部電力ニシムラでございます。
1:47:52	例えば、
1:47:54	敷地の東側の 31 ページ、同じ
1:47:58	設備物の本編の 31 ページをお願いいたします。
1:48:05	こちら、敷地

1:48:09	左下の平面図からまず説明させていただきますと、津浪は東から西に向かって入ってきたというところで
1:48:17	このような調査地点を選定して調査しているわけですが、敷地
1:48:24	67、
1:48:27	11 はじめたすいません六、七十 31067 と津波堆積物が確認されているところでございます。
1:48:36	一番、
1:48:38	上の津波堆積物については約 6000 年前の津波堆積物ということで、その当時の地形が反映されているところと考えてございます。この上の地質断面図を見ていただきますと、
1:48:52	6 から 17 に向けて、赤色のイベント堆積物が
1:48:58	遡上していくというか、上がっていったのが確認できていると思います。で、
1:49:03	6 から 17 の軸から少し外れたところに 10 人中 11 とございますが、こちら、
1:49:11	緑の、
1:49:13	地図断面図でいうと緑の下の部分が基盤相良層になるんですけども、その下から層が上がっていく谷壁を
1:49:21	表現するのがよくわかるかと思えますので今の現状の地形と少し異なりますが、その当時の地形を見ても、
1:49:32	タニであったことがわかれると判断してございます。規制庁タニです。私がちょっと勘違いしてたんだと思う。この標高 30 メーターだとか 40 メーターっていうのはこれははまってとかじゃなくて、基盤が山の山なんだっていう説明なんですか。
1:49:49	すいませんヒサマツです。補足といいますか今のここ等高線書いてあるのは、現状の現在といいますか、1960。
1:50:02	うん。
1:50:03	の空中写真からつくった地形なんですけど、
1:50:09	31 ページであれば上の断面図見ていただきますと、
1:50:13	当然ふう精査かぶってまして、
1:50:17	当時の地形そのものではないんですけど、建設当時の
1:50:24	データの積み重ねありますのである程度封水精算の分布っていうのはあくしておりますのでそれを見ると、現状の地形と後露岩しているところと考えますとそんなに変わるものではないということでありまして、
1:50:42	大体今の地形で当時の地形大体は推定できると考えております。

1:50:51	規制庁タニです。つまりは、基盤側の形をちゃんと考えるとその基盤がっていうのはこの今の標高 30 メーター-40 メーターとか、そういった形に近いっていう説明をされているということでもいいですか。
1:51:05	はい、計上としては、近いものだと考えてまして、標高自体は当然防いだかぶってる部分だけ低くなるんですけど、ノ形自体はそんなに変わらないと考えてまず規制庁タニで説明をちょっと理解しました。
1:51:23	規制庁サグチです。
1:51:26	今のところでちょっと一つお願いお願いというのかがあって、多分これ緑のが、基盤断とする相良層っていう多分御説明だと思うんですけど、多分それってどこにもなくてあくまでもこの緑っていうのは人堆積物っていうので。
1:51:41	すごく何か新しいようなイメージもうなんかできちゃうかなっていうのがあるので、もしこれちゃんと下がるのであれば、なんか探そうとわかるようにしていただきたいんですけどこれ本当に下がるほどよろしいですか。
1:51:56	中部電力の西村でございます。緑のところについてはです堆積物、
1:52:02	探そうとはまたこんとなるんですけどもその緑の下の部分が相良層でございます。こちら地質断面図ではその相良層がちょっとわかりづらいかわからないようなことになっているので、少しちょっと工夫をさせていただければと思います。
1:52:17	補足説明資料のほうには、
1:52:20	一応、
1:52:30	例えば 21 の補足説明資料の 21 ページとかであれば、
1:52:36	右下に凡例がついてございまして無地主として相良層群をここでいきますと、10.
1:52:44	7、
1:52:46	よりも深いところについては基盤であるというようなところがわかるかなというふうにしたその地質断面図でもうちょっとそこら辺がわかるようにしていきたいと思えます。以上です。
1:52:58	はい。規制庁サグチです。一応ご説明わかりましたけどじゃあ今の少なくとも高齢れているボーリングの
1:53:07	柱状図の
1:53:10	一番下がこれ相良層との境界って考えていいのかどうかって言うの。
1:53:17	それとも全然違うのかちょっと教えてください。
1:53:22	緑の下の部分の境界が探そうとの境界ということでやっています。
1:53:34	はい。

1:53:37	サグチです。わかりました。一応ちょっと我々でも確認をしますけど、そういうことであれば、そこはちゃんと期待をするようにお願いします。
1:54:22	規制庁タニです。
1:54:25	先ほどの説明、
1:54:27	口頭では聞いたんですけどやっぱりその辺のところ、先ほど言いましたけど柱状図とか、ちゃんとデータを出していただいて、そこから確認させてもらいたいと思いますのでお願いします。
1:54:41	中部電力ニシムラでございます承知いたしました。
1:55:16	規制庁タニですすいませんあの津波のところに戻って、
1:55:20	31 ページで、
1:55:24	内閣府 2020 これ、日本海溝千島海溝の話なんですけど。
1:55:30	ここでは
1:55:34	2020 年時点までに実施された津波堆積物の調査資料から最大クラスの津波をまあ推定できることを示唆さずしてあるわけなんですけど。
1:55:44	これはあれですよ、これは、
1:55:46	日本海溝千島海溝の最大クラスの話であって、御社のほうとして南海トラフ。
1:55:54	っていうのは、ここに書いてあるように、
1:55:57	2020 年の間での調査を踏まえても、
1:56:01	まだマーチ点数は必ずしも十分ではなくってっていうのは、
1:56:05	十分ではないっていうふうに考えているってことです。
1:56:09	でしょうか。
1:56:15	はい、中部電力の森です。2020 年時点でないか、南海トラフで津波対策調査が
1:56:24	なんかが出たのが 2012 年ですので、そこから中最大クラスが見直されるために調査がされたということはないので、2020 年時点で千島海溝側でこういうような津浪リスク充足している。
1:56:39	最大クラスが津波堆積物から求められるようになってきているというところを踏まえて、次のページからの③番の南海トラフでも同じように調査するとどうなのかというような調査のキックとして整理を、今回②番はまとめさせていただいたと。
1:56:56	いうところですよ。前回杉野さんからもご趣旨ご確認がございましたけれども、
1:57:05	南海トラフのほうはどうなのかというようなことで、26 ページの部分で、
1:57:14	ご確認いただいたかと思うんですけども、
1:57:19	右下の内閣府 201210 のちょっと小さいほうの箱書きですけども、

1:57:26	宮城県沖でM繰り返し5回ぐらい発生していると他の地域でもこれと同程度の発生頻度で最大クラスの津波が発生しているとすると、過去3000年以上の津波対策の調査資料からその間に発生した最大クラスの津波は推定できることを示唆する。
1:57:42	そのほか、内格納2020年の記載で、じゃあ他にも同じように発生しているっていうことがわかっているのかというようなご確認いただきましたので、27ページのほうに総ラインについては、まとめてございまして、
1:58:00	東北沖山中トラックも含めて、巨大地震が発生してる領域では数百年に1回の頻度で同程度の巨大津波が繰り返し発生しているということが確認されてございますので、南海トラフレジャー最新の知見はどうなのかというの③番のほうで調べていったと。
1:58:18	というような治療の構成でございます。
1:58:26	はい、お考え確認できました。
1:58:29	私のほうは以上です。
2:00:16	規制庁の伊藤ですけれども、ちょっと皆さんの方、論理構成の再確認なんですけど。
2:00:30	遠州灘の沿岸一系の痕跡再現モードでベースとして最新知見を取り入れて、時中部電力オリジナルのモデルとして検討を行ったそういう主張でいいですか。
2:00:53	中部電力、アマノでございますはい、
2:00:56	基本的にはそういう3ページに御説明させていただいた通りで遠州灘を再現するモデルをつくった上で、
2:01:06	ここは見ただくとわかるように、超滑り域だとか、引き受けカナダとかシームだとかですね、いわゆる何回。
2:01:15	内閣府2012が取り入れたような知見を取り入れずにここは保守的に要は支部で再現できるモデルを出発点として作りまして、そこから順番に波源モデルつくってるんで、これはナイトウさんの御指示等もありまして
2:01:34	右側にある通り、例えば分岐断層を見たりですね或いは超滑り域が二つになったりいろんなケースをすべてパラスタした上でやってきているということで、これは浜岡に対して一番影響の大きいであろうというモデルを
2:01:52	ことを探すモデルとしてやってきたというふうに考えてございます。
2:01:59	規制庁ナイトウですけどもね。さっきサグチからもコメントあったように、この演習などの沿岸のずっと痕跡再現モデルの
2:02:08	メッシュ等進めもその関係の部分はどういう設定したのかってよくわかるはつきり書いてないのでそこはまずきちんと書いてもらえますか。

2:02:22	アマノでございます。はい。そう上流とかですね我々がなぜここをこういう形で特性化モデルを設定してその中で、滑り込みそ速度比例というものを取り入れつつ、遠州灘を対象に、
2:02:39	作業したかっていうところの上流が確かに書き込みが足りないという御指摘はご確認わかりますのでしっかりと一般の方が読んでもわかるような形で整理したいと思っておりますので、細かい滑り量の設定なんかを補足に、
2:02:57	ありますんでまたそれは、
2:03:01	はい、ご確認いただければと思う。
2:03:06	規制庁の内藤です。理由で確認なんだけど。
2:03:10	えっとねえってこれ信濃モデルやってその後の最新モデル最新の知見を取り入れたという話なんだけど、取り入れたやつで、
2:03:22	ざっと見る限り、
2:03:24	内閣府以外の知見というのは、カトウ 2020
2:03:29	しかないような気がするんだけど事実関係はそれでいいですか。
2:03:45	中部電力の森です。モデルの設定にあたっては、それぞれこれまで知見を調べてきて参っております、
2:03:55	ちょっとフローで書くといえます 3 ページのように、あんまり情報がないかもしれませんが、各パラメータの設定それぞれについては、国内外の知見を踏まえて設定しておりますけどその中では内閣府も見っておりますけれども、当社独自として文献も調べた上で、どこまでが合理的なパラメータ設定なのか、国内外の地震の事業は、
2:04:13	どんなものがあるかというのを調べた上で設定をしております。
2:04:18	規制庁ナイトウですけど。いやだから考え方はいいとして、結局取り入れたものとして、内閣府と違うパラメータなんてのは、カトウ 2020 の知見のみということでもいいですか、ざっと見た感じそうふうには見えませんが、ざっとしたことなんだけど。
2:05:09	はい、中部電力モリです。例えばをライズタイムについて申し上げますと当プレート間の資料の 135 ページ。
2:05:18	で、
2:05:26	国内外の津波バージョンから推定されたモデルっていうのはどういうものがあるかということで、内閣府も含めて、どんなモデルがあるかというのを調べてきたりだとか、破壊伝播速度についてもどういう設定があるかということを決まらせてどういう推定がされているかと。
2:05:42	いうことをしました上で、この
2:05:45	設定範囲を踏まえて、パラメータストーリーっていうのを行っております。

2:05:52	規制庁ナイトウですけども、だからそれってカトウ 2000 カトウほか 2020 に基づいて設定したってということなんじゃない。違うんですか。
2:06:43	すいません中部電力の森でちょっと意図が伝わって私が理解できてないかもしれないかもしれませんけれども、そのパラメータ設定としては、今御説明して 235 ページのような各論文からどういう数値推定がされているかということ踏まえて設定してまして。
2:07:04	136 ページにカトウほか 2002 オオノふってますけど
2:07:09	も設定で妥当なのかどうかというところについて、滑りどライズタイム組み合わせという観点からカトウほか 2020 という。
2:07:20	論文を出しいたしまして、
2:07:24	滑りどライズタイムの観点からもう精一杯やったモデルなんだということを御説明させていただいております。
2:07:31	なので、カトウほか 2020 に基づいて設定したというよりは、国内外の知見にもとを沢山調べてきて、それに基づいて設定しているとかで、その妥当性について、ライズタイムに関しては、カトウほか 2020 で確認をしたと。
2:07:47	というような説明をさせていただいてるつもりでございます。
2:07:53	規制庁ナイトウですけども。いやだから結局ライズタイムのどこ以外は知見を調べた結果として内閣府と同じものになってますっていう、そういう理解でいいんですよね。
2:08:05	違うんです。
2:08:07	何だか物でございます。
2:08:09	パラメーターという意味ではライズタイム以外はそういう数字になってございますが 3 ページ見ていただく通り、滑り域の位置だとか、
2:08:20	もう外郭と違います。今回内野モデルと西 20km 滑り域を振ったものでこれも一つのパラメーターという観点でいけば、当然内閣と一緒にございませんで、
2:08:35	ヒアリングや審査会合の中のコメントの中で、今回も 3 ページに入れてございますが、
2:08:42	それが大きい。それは来置くのですね鋭角に建ってるところについても超滑り域を見るといったところも内閣府では考慮されてないものも我々としては当然考慮しているということで、
2:08:56	それぞれ、
2:08:58	いろんな知見をすべて織り込んでやってきます結果的にライズタイムにつきましては補足資料、381 とか、

2:09:08	382、或いは 383 ぐらいですすでに御説明しておりますがやはりとライズタイムをこの 40 メーターというすべる 60 秒で設定すると、そもそも 3.11 すら再現できない。
2:09:24	そういう事象がある中で内閣はそういうのを採用してますが、先ほどサグチさんがおっしゃられた通り津波っていうのは当然時間というのもある中で、より影響というのを正しく評価できるラインのタイムっていうのはどうかということで、カトウか 2020 でしっかりと整理させて
2:09:44	いただいて、やはり来さん 60 秒っていうのは、短周期が卓越して津波高をこの少し大きくなるものの、これは、
2:09:53	津波影響という観点においては科学的に、
2:09:57	正しいわけではないんじゃないかということで、
2:10:01	60 秒ではなくて 120 秒を選んでもということになります。
2:10:06	規制庁ナイトウですけれども前半の部分の場所については、これは招かに厳しくなるようになっていう振った結果だから、それは別によくって、ベースとなるもののお話で、なんだけどだ後半の話は結局、ライズタイム柱カトウほか 2020 を
2:10:24	の知見に基づいて設定をしましたっていうことでもいいんですね。
2:10:32	最終的にはそこで妥当性は確認しておりますが、先ほどから申し上げてる 60 秒でやるとこんなに合いませんよって話を以前からも説明はさせていただいている通りでございます。
2:10:57	規制庁のサグチですけれども、ちょっと今のライズタイムと滑り量との組み合わせというお話がちょっと出たんですけど。
2:11:08	ちょっと 1 点確認っていうのが何か以前ですね、今のライズタイム 120 秒等 37 メーターでしたっけ、これと何か。
2:11:20	等価のモデルみたいなのをいっぱい出されていて、多分何か補足す説明資料のほうでしたっけ、に多分何か。
2:11:30	あったかなとは思んですけど。
2:11:32	ちょっとその
2:11:34	実際のモデルってどうというふうな形で作成されているのかって、
2:11:39	ちょっと以前、
2:11:42	確認してないので、ちょっとこの場で申し訳ないんですけど、確認させてもらっていいですかね。
2:11:51	規制庁サグチです
2:11:54	補足説明資料の 218 ページで、

2:12:00	モデル化たくさんあってこれこれらが今設定しているものと等価のモデルです。
2:12:07	例えばライズタイム 90 秒にした場合 64 にした場合 30 秒にした場合、
2:12:13	のそれぞれの滑り量学校でっていう形で、あと敷地前面の
2:12:21	津波高って出されてるんですけど、これは、
2:12:24	実際にシミュレーションをされた結果っていうことでまずよろしいですかね。
2:12:33	はい、中部電力 Mori です。おっしゃる通りです。波源モデルの設定についてちょっと詳しく書いてございませんでしたが、
2:12:41	右下に 118 ページでいうと右下の黄色箱書きの上辺りに少しだけ記載してございます。パラメーター SARRY モデルと言ってる 30、6.8m とライズタイム 120 秒のモデルと等価のモデル
2:12:56	については、両者の津波高が比較できるように、滑り量とライズタイム以外の条件を内閣府の最大クラスモデルと同じと設定して滑り量とライズタイムだけを滑りを変えるときには全体的に滑りを小さくしておきたい。
2:13:11	というような採用していて、内タニについても同様でございます。そのときに、
2:13:17	等価のモデルっていうのはどういうところにあるかというのを探したのが、こちらのページになります。
2:13:24	はい、規制庁サグチですありがとうございますので、
2:13:28	さらにちょっと確認なんですけどね、今回、若干
2:13:34	モデル名が変わっ
2:13:36	できたっていうのもあって、パラメータースタディモデルっていうのがちょっと今回のどれにあたるのかって言うのは、先ほどちょっと天野さんから御説明もありましたけど、最終的についてないんですけど、
2:13:51	内閣府、
2:13:53	の最大クラスモデルから、例えば滑り駅大西にちょっと動かしたもののっていうモデルになってると思うんですけど。
2:14:03	それで、それと、
2:14:05	じゃあ等 60 秒なり、
2:14:07	30 秒 90 秒っていうものを、もうそびれ域の位置がどういうふうになっているのかとか、実際に
2:14:15	その滑り量っていうのはどういうふうに変更をされているのかって、ちょっとそこがよくわからないんですけど。
2:14:25	もし可能だったら、ちょっとその設定方法みたいな、ちょっと付けつけていただきたいんですけど。
2:14:36	はい、中部電力 Mori です。パラメータースタディモデルと呼んでいるのは

2:14:41	今佐々木さんがおっしゃる通りでオオツBq少しずらして当初に影響が大きいモデルでございますので、それと同等のモデルについてはその滑り量を、そのモデルについて滑り量を変えてライズタイムを変えてというようなモデルになっております。ちょっと詳細のデータもし、お示しするようにいたします。
2:15:02	はい、サグチですすいませんありがとうございますじゃちょっとよろしく願います。
2:15:11	はい、我々からの
2:15:16	確認事項っていうのは、議場ですべてなんですけれども、ちょっと私も最初言った一番最初のところですね。
2:15:25	御社の考え方。
2:15:28	でやっぱり、特に津波痕跡痕跡モデル。
2:15:32	の作成するときっていうところがちょっとやっぱり今の資料ではわかりにくいので、当然そこがちゃんと示していただかないとそのあとの議論もできないので、そこはきちんと理解示していただきたいなど。
2:15:49	あとタニの方からもありましたけれども、ボーリング柱状図と思うんですね。
2:15:55	エビデンスっていうのも、ちょっとつけていただきたい。
2:15:59	というのが多分報告一番大きなところだと思うんですけど。
2:16:05	なので、もう1回ですねやっぱりそこはヒアリングで確認をさせていただきたいと思うんですけど。
2:16:11	中部電力さんの方から何かこちらに対してコメントと確認事項があれば願います。
2:16:20	基本的にはアマノでございます。特に最初の痕跡再現モデルのところしっかりここがスタート地点なので、一般の方が読んでもわかるようにしないと議論ができないということは重々承知しておりますので、
2:16:35	次回、もう1回ここ特にしっかり御説明できるように作り込んで改めて日当たり申し込みしたいと思います。
2:16:47	はい、規制庁サグチです。ではよろしく願いいたします。そうしましたら特に確認とか中部電力さんのほうから内容でしたらですね、
2:16:59	本日のヒアリングですね、ここで終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。
2:17:06	ありがとうございました。